

司法卿 大木喬任

○監視ニ付セラレタルモノ北見千島根室三國中郡役所戸長役場ニ於テ證票認印ヲ受ク

○明治十七年四月十七日根室縣乙第五十號達郡役所戸長役場

監視ニ付セラレタル者ハ刑法附則第二十七條第一項ニ據リ毎月兩度所轄ノ警察署ニ出頭シ官吏ノ認印ヲ受クヘキ儀ニ有之候處左ノ郡村ニ居住スル者ハ便宜其地ノ郡役所又ハ戸長役場ニ至リ謹慎ヲ表スル爲メ監視ノ證票ヲ出シ認印ヲ受クルコトヲ得此旨相達候事

根室國野付郡ノ内

別海村

平系村自シンベツ川以南

北見國

紋別郡

全郡

千島國

擇捉郡

全郡

振別郡

紗那村ノ内

留別村

○明治十七年四月十七日根室縣丁第二十號達警察署

監視ニ付セラレタル者取扱方之義今般乙第五十號ヲ以テ相達候ニ付テハ該郡村ニ居住スル者ヘ監

視票ヲ下付スルモ其旨本人ヘ告知可致置此旨相達候事

違警罪

〔沿革〕沿革目錄ニ詳ニシ此ニ略ス

○違警罪目

○明治二十年十月四日北海道廳令第九十號

北海道違警罪目左ノ通相定メ明治二十年十一月一日ヨリ施行ス  
但元函館札幌根室縣ニ於テ定メタル違警罪目ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

北海道違警罪目

第一條 左ノ諸件ヲ犯シタルモノハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓五拾錢以下

ノ科料ニ處ス

- 一 外國人遊歩規程外ニ於テ旅券ヲ持セサル外國人ヲ私ニ止宿セシメタル者
- 二 規則ニ依リ族籍氏名年齢身分職業ヲ稱スヘキ場所ニ於テ之ヲ詐稱シタル者
- 三 病死又ハ病毒アル鳥獸ノ肉ヲ販賣シタル者
- 四 毒藥劇藥又ハ氣發物ヲ用ヒ禽獸魚介ヲ捕獲スル者
- 五 飲用水ヲ汚濁シ又ハ水路ニ妨害ヲ爲シタル者
- 六 延燒ノ豫防ヲ爲サスシテ野火ヲ焚キタル者
- 七 制止ヲ肯セス喧嘩若クハ爭論ヲ爲シタル者
- 八 八ニ瓦礫水雪其他ノ物件ヲ投シタル者
- 九 牛馬ヲ街頭ニ放置シ又ハ之ガ繫鎖ヲ怠リ範離アル他人ノ邸宅田圃ニ入ラシメタル者

十 墓地及埋葬取締規則及細則ニ違背シタル者  
 十一 物産ヲ保護スル爲メ設ケタル規則又ハ收税ニ關スル取締規則ニ違背シタル者  
 十二 警察ノ規則ニ違背シテ工商以外ノ業ヲ爲シタル者  
 十三 人馬車輜立營業規則ニ違背シタル者(二十一年四月北海道廳令第二十七號ヲ以テ追加)  
 十四 街路取締規則ニ違背シタル者(二十二年十一月北海道廳令第六十六號ヲ以テ追加)  
 十五 函館新水道取締規則ニ違背シタル者(二十二年十一月北海道廳令第七十號ヲ以テ追加)  
 十六 港内取締規則ニ違背シタル者(二十三年五月北海道廳令第十九號ヲ以テ追加)  
 十七 河川航通船規則ニ違背シタル者(二十三年六月北海道廳令第二十三號ヲ以テ追加)  
 十八 蠶種製造販賣規則ニ違背シタル者(二十三年六月北海道廳令第二十六號ヲ以テ追加)  
 第二條 左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ五錢以上七拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
 一 神佛祭事等ニ托シ強ク出費ヲ促ス者  
 二 制止ヲ肯セズ電信線路ニ於テ紙鷲ヲ弄フ者  
 三 制止ヲ肯セズ裸體ニテ街頭ヲ徘徊スル者  
 四 便所ノ設ケアル市街ニテ便所外ヘ大小便ヲ爲シタル者  
 五 街頭ニ於テ蓋ナキ桶ヲ以テ汚穢物ヲ運搬スル者  
 六 人家連續ノ地又ハ耕地近傍ニ於テ垣土柵壘等ノ設ケナク牛馬ヲ放牧スル者(二十二年七月北海道廳令第四十六號ヲ以テ追加)  
 ◎ 違警罪目ノ内施行セサル地方區別  
 ○ 明治二十年十月四日北海道廳令第九十一號

今般廳令第九拾號ヲ以テ違警罪目相定候處全令中街頭云々トアル第一條第九第二條第三第五ノ罪目ハ當分ノ内札幌函館根室福山江差小樽市街ノ外ニテ施行セズ  
 ◎ 違警罪目決例ニ據リ處分セシモノ市町村役場ヘ通知方  
 ○ 明治二十二年七月十二日北海道廳訓令第三十六號警察署宛  
 刑法第四百二十七條第十及明治十九年内務省令第十九號第一條乃至第四條ノ違犯者ヲ明治十八年第三十一號布告違警罪目決例ニ據リ即決シ其裁判確定シタル時ハ憲兵隊分隊又ハ警察署分署ヨリ其都度犯人本籍地ノ市役所町村役場ヘ通知スヘキ旨内務大臣訓令有之候條右心得ヘシ  
 諸稅則違犯處分  
 ◎ 諸稅則違犯者一ヶ月分取纏メ第四部ヘ通報方  
 ○ 明治二十一年一月二十八日北海道廳訓令第十號警察署宛  
 諸稅則違犯者(違警罪ニ係ル者)ヲ處斷シタル節ハ該言渡書ノ附本ヲ以テ每一ヶ月分翌月五日限り第四部ヘ通報シ若シ處斷者ナキ時ハ其旨通報スヘシ尤モ從前通報ヲ爲サル地方ハ明治二十年四月ヨリ同年十二月迄ニ係ル分ハ此際取纏メ來ル二月五日迄ニ同様通報スヘシ  
 但明治十八年八札幌縣丙第四十一號達ハ廢止ス  
 ○ 明治二十一年五月十六日北海道廳訓令第四十九號郡區役所宛  
 諸稅則違犯者報告方左ノ通定ム  
 但明治十九年四當廳已第三拾七號達ハ廢止ス  
 諸稅則違犯者(違警罪ニ係ル者)ヲ裁判所ニ告發シタルトキハ犯人始末書及告發狀附本ヲ以テ每一ヶ月分

月分翌月五日限り第四部へ通報シ違犯者處刑言渡ヲ受ケタルトキハ該言渡書ノ謄本ヲ裁判所ニ請  
求シ同様通報スヘシ

但告發シタルモノ之ヲキ時ハ其旨通報スヘシ

従前々項ノ通報セサル地方ハ明治二十年四月ヨリ同年十二月マデニ係ル分此際取網メ來ル六月五  
日マデニ有無トモ通報スヘシ

○煙草稅則違犯ノ爲メ無印紙不足印紙等ノ製造煙草買受方

○明治二十二年二月七日北海道廳訓令號外郡區役所宛

當道ニ於テ煙草稅則違犯ノ爲沒收ノ無印紙不足印紙等ノ製造煙草ハ當分ノ内煙草仲買營業人又ハ  
煙草小賣營業人ヲシテ之ヲ買受ケシムルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ煙草稅則第八條第九條及稅則施行細則第十條第十六條ノ手續ヲ爲サシメタル  
上租稅檢査員ヲシテ之ヲ點檢セシムヘシ

### 第十六類

#### 監獄署及職員事務

○監獄署ノ廢置分合移轉等

〔沿革〕開拓使以降監獄署及集治監ノ廢置分合等一ニシテ足ラス沿革目錄ニ詳ニシ卷  
末ニ現在監獄署表ヲ掲ク

#### 監獄職員及事務

〔沿革〕明治六年四月開拓使函館支廳第六十三號達徒罪掛ヲ懲役掛徒罪場ヲ懲役場ト  
改稱○全十四年本使無號達ヲ以守卒獄丁ヲ置キ等級月俸ヲ定ム○十五年三月

札幌縣丙第一號達札幌縣分科章程ヲ假定○全年全月根室縣乙第二號達監獄署  
事務章程及處務順序假定○全年全月全縣丙第二號達ヲ以監獄署事務章程ヲ假

定ス○全年四月函館縣外達監獄本支署職制及事務章程ヲ定ム○全年十二月  
七日根室縣丙第二十五號監獄署事務章程ヲ定ム○十六年四月札幌縣無號達ヲ

以看守休暇規則改正○二十年十二月北海道廳訓令第百三十八號看守長看守禮  
式ヲ定ム○二十年五月北海道廳訓令第二十五號ヲ以監獄官定員ヲ定ム○全年

六月全廳訓令第五十三號ヲ以空知外二監獄署各課分掌ヲ定ム○全年全廳  
訓令第五十四號ヲ以札幌外二監獄署各課分掌ヲ定ム○全年全廳訓令第六

十五號ヲ以看守採用標準ヲ定ム○全年全廳訓令第六十六號ヲ以看守被服  
給與及保存期限ヲ示ス○二十二年六月全廳訓令號外ヲ以看守精勤證書具狀方

ヲ示ス〇二十三年九月全廳訓令號外ヲ以看守訓授方ヲ示ス〇全年十一月訓令  
號外ヲ以看守教習規則標準ヲ定ム

○看守職務心得并禮式

○明治十七年二月八日根室縣第十二號達監獄署宛  
本縣看守職務心得并禮式左ノ通相定候條此旨相達候事

看守職務心得

- 第一條 看守ハ監獄ヲ戒護シ囚徒ノ逃走及獄則違犯等ノコトヲ警戒豫防スルヲ以テ職務トス
- 第二條 法度規則及ヒ上官ノ命令ヲ遵奉シ必ス專斷ノ處置アルヘカラス
- 第三條 同僚一致協力常ニ誼和温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ互ニ職務獎勵スヘシ
- 第四條 由勤ノ節ハ制帽服ヲ着スルハ勿論職務上必用ノ物品ヲ携帶シ看守長ノ點檢ヲ受クヘシ
- 第五條 職務上ニ付上官ヘ開申スヘキ事件ハ勉メテ確實ニシ決シテ愛憎偏倚ノ義之アルヘカラス
- 第六條 在監人ヲ取扱フニハ温順ヲ旨トシ其事由ノ辨ナキ者ニハ懇切ニ教諭ヲ爲シ決シテ凌辱ヲ加ヒ手荒ノ處置ヲ爲スヘカラス
- 第七條 常ニ在監人ノ姓名年齡體格容貌等ヲ暗記シ且ツ其行狀併ニ勤怠ヲ詳悉シ若シ異動アルトキハ之ヲ典獄及ヒ看守長ニ届出ツヘシ
- 第八條 在監人獄則ヲ犯スヲ認ムルトキハ直ニ取押務メテ證據物ヲ取纏メ看守長ニ申告スヘシ
- 第九條 囚徒ヲシテ他所ヘ押送スルヲ誹衛スルトキハ務メテ人民ノ妨害トナラサル様注意スヘシ
- 第十條 在監人ト漫リニ談話シ又ハ其通聲シ得ヘキ所ニ於テ檢束上ニ係ル事ヲ論シ又ハ雜話等ヲ爲スヘカラス

第十一條 在監ノ起床還房及服役者ノ就罷休息時限等板木ヲ以テ勸止ヲ號報シ就役ノ際ニハ必ス  
巡回シテ役ニ就キヤ否ヲ點檢スヘシ

第十二條 病囚診察ニ立會及各監内常置ノ器具ヲ點檢シ其異狀アルヲ認ムルトキハ看守長ニ申告  
スヘシ

第十三條 非常ノ事變アルトキハ非番ヲリトモ速ニ出署シ典獄又ハ看守長ノ指揮ヲ受クヘシ

第十四條 未已決囚ヲ論セス其親戚又ハ知友ノモノアンハ豫テ看守長ニ申告スヘシ

第十五條 何等ノ事故アリト雖モ在監人ヘ私カニ飲食其他ノ物品ヲ與フルヲ禁ス

第十六條 交番派出又ハ巡回中ノ事故ハ細大トナク手帖ニ筆記シ歸署ノ上ハ詳ニ其事故ヲ看守長  
ニ届出ヘシ

但シ公務外ノコトヲ手帖ニ記入スヘカラス

第十七條 病氣引籠ノ節ハ必ス醫員ノ診斷書ヲ添ヘ其都度届出ヘシ

但シ出勤ノ節ハ届書ノ外醫員診斷書ヲ要セス

第十八條 夜間ノ巡回ハ殊更ニ靜肅ヲ旨トシ監内ノ動靜ヲ觀察スヘシ

第十九條 毎日囚徒ヲ出監セシメ悉ク監房外適宜ノ場所ニ整列セシメ看守長立會ノ上人員ヲ點檢  
シ歸監ノキハ身体衣服等精査シ包藏品等勿ラシムルヲ要ス

第二十條 在監人ニ戒具ヲ施スルハ一回毎ニ精査シ連鎖ノ囚徒ハ成ヘク罪ノ輕重ヲ量リ惡事同謀  
ノ憂ナキモノヲ以テ繫鎖スルヲ要ス

○看守禮式

一 御通聲ノ時ハ正面ニ直立シ御旗ノ過ルヲ見テ帽ヲ脱シ佩劍ヲ垂下シ左手ヲ以テ劍ノ柄頭ヲ握

リ乘興ノ近クニ及ンテ上體ヲヤ、前ニ傾ク尊敬スヘシ  
 一 途中上級官員ニ逢フキハ三四歩前ノ地ニテ左手ヲ以テ劍ノ柄頭ヲ握リ右手ヲ帽ノ前額右側ニ  
 舉テ指ヲ伸シテ閉接シ掌ヲ前ニ向ク同時ニ兩足ノ踵ヲ揃ヘ姿勢ヲ正シ敬禮スヘシ  
 一 途中上級官員ニ對シ言語ヲ交ヘント欲セハ距離六歩前ノ地ニ於テ帽ヲ脱シ之ヲツボン縫目ノ  
 處ニ垂レ言終テ別レントスルキニ限リ頭ヲ少シク低レテ行禮スヘシ  
 一 制服ニテ途中同僚ニ行逢フキハ互ニ行禮スヘシ  
 一 前條ニ説ク如ク看守ハ帽ヲ脱セザルヲ以テ通常ノ禮式トシ看守長以上ハ之ニ反シ帽ヲ脱スル  
 ヲ以テ禮トス  
 一 上級官員ニ對シ禮ヲ行フニ當リ上級官員ハ右手ヲ以テ帽ヲ脱シ禮節ノ受テ表スルモノトス

○看守帶劍心得

○明治十七年二月二十六日根室縣丁第十六號達監獄署宛  
 看守帶劍心得左ノ通相定メ候條此旨相達候事  
 但第二條第一項ノ場合ニ非スシテ傷スルニ於テハ假令過誤ニ出ルモ都テ法衙ノ處分ニ付スヘシ

看守帶劍心得

第一條 職務上制服ヲ着用シタルキハ必ス帶劍スヘシ  
 革帶ハ上衣ノ下ニ締メ劍ノ柄頭ヲ左脇ニ顯ハシ垂下スヘシ  
 外套ヲ着用スルキハ其上ニ帶劍スヘシ但シ降雨ノ節ハ其下ニ帶ヒ柄頭ノミヲ外部ニ顯ハスヘシ  
 劍及其屬具ハ丁寧ニ保存シ特ニ金屬ノ部分ハ常ニ研磨シ錆銹ヲ生セザル様注意スヘシ  
 第二條 帶劍ハ囚徒暴行又ハ逃囚追捕ニ際シ兇器ヲ持シテ抗拒シ拔劍スルニ非レハ防禦スルニ備

ナキ場合ノ外拔劍スルヲ得ス  
 前項不得止場合ニ際シ拔劍スト雖モ兇人畏服ノ模様アルニ於テハ穩ニ取押フヘシ  
 不得止場合ニ際シ拔劍スト雖關係ナキモノニ負傷セシメサル様深ク注意スヘシ  
 拔劍シタルキハ兇人ヲ傷スルト否トニ拘ラス其景況ヲ速カニ典獄ニ具申スヘシ

○看守長看守禮式

○明治二十年十二月六日北海道廳訓令第百三十八號監獄署宛  
 看守長看守禮式ノ義明治十九年九月内務省令第十八號及同省訓令第十九號ノ通心得ヘシ  
 但看守長ハ警部補以上ノ例ニ從ヒ看守ハ巡查ノ例ニ從フヘシ

○監獄官定員

○明治二十年五月六日北海道廳訓令第二十五號監獄署宛  
 警察官監獄官定員左ノ通定ム

- 監獄官
- 空知監獄署
- 書記 七人
- 看守長 四十六人
- 監獄醫 一人
- 樺戶監獄署
- 書記 七人
- 看守長 三十三人

監獄醫	一
釧路監獄署	
書記	七
看守長	八
監獄醫	十六
札幌監獄署	
書記	一
看守長	四
監獄醫	二
函館監獄署	
書記	一
看守長	四
監獄醫	二
根室監獄署	
書記	一
看守長	四
監獄醫	二
看守長	二
監獄醫	一

○空知外二監獄署各課分掌

○明治二十年六月四日北海道廳訓令第五十三號空知樽川監獄署宛

其監獄署ニ第一課第二課第三課第四課第五課及醫務所ヲ置キ分掌ヲ定ムルコト左ノ如シ  
但(二十二年道廳訓令)五十五號ヲ以テ削除

第一課	一 往復文書淨寫印刷及接受發送ニ關スル事
	二 文書編纂及圖書類ヲ保存スル事
	三 監獄ノ構造方法ニ關スル事
	四 囚徒ノ出入ニ關スル事
	五 囚徒ノ名籍並刑期ヲ調査スル事
	六 囚徒ノ願辭ニ關スル事
	七 囚徒ノ貨物領置ニ關スル事
	八 給與品及差入品ニ關スル事
	九 教誨並衛生ニ關スル事
	十 特赦及假出獄免幽閉ニ關スル事
	十一 統計表ヲ調製スル事
	十二 他課ノ主掌ニ屬セサル事
第二課	一 囚徒ノ戒護ニ關スル事
	二 囚徒ノ書信接見ニ關スル事
	三 囚徒ノ疾病死亡逃走ニ關スル事



第二課

- 一 囚徒ノ戒護ニ關スル事
- 二 囚徒ノ查信接見ニ關スル事
- 三 囚徒ノ疾病死亡逃走ニ關スル事
- 四 囚徒ノ賞罰ニ關スル事
- 五 囚徒ノ行狀録ヲ調製スル事
- 六 囚徒ノ作業ヲ督勵スル事
- 七 囚徒ノ願訴ヲ受付スル事

第三課

- 一 經費ノ豫算及金錢物品ノ出納ニ關スル事
- 二 囚徒ノ工錢給與ニ關スル事
- 三 製作物品ノ販賣ニ關スル事
- 四 監獄一切ノ需用品ヲ供給スル事
- 五 建物其他財産ヲ保管スル事
- 六 不用物品賣却ニ關スル事
- 七 工業ニ關スル事
- 八 服役囚徒ノ科程並工錢ヲ定ムル事
- 九 工業ニ要スル器具材料ヲ調査スル事
- 十 製作物品ヲ審査スル事

十一 給仕小使進退ニ關スル事

醫務所

- 一 囚徒ノ疾病診察治療及藥劑ニ關スル事

○監獄署ノ處務細則制定方

○明治二十年六月四日北海道廳訓令第五十五號<sup>根室 釧路</sup>監獄署宛  
監獄署ノ處務細則ハ實務ノ簡易ヲ旨トシ典獄ニ於テ定ムヘシ

○明治二十年六月四日北海道廳訓令第五十六號<sup>札幌 函館 根室</sup>監獄署宛  
監獄署ノ處務細則ハ實務ノ簡易ヲ旨トシ典獄ニ於テ相定メ認可ヲ受テ施行スヘシ

○看守採用標準

○明治二十年六月十一日北海道廳訓令第六十五號<sup>札幌 函館 根室</sup>監獄署宛  
看守採用標準左ノ通り定ム

看守採用標準

- 第一條 看守ハ必ス試験ノ上採用スヘシ
- 第二條 看守ハ品行方正ニシテ左ノ諸件ニ適合スルモノタルヘシ
  - 一 年齢二十年以上四十五年以下ニシテ徵兵ニ相當セサルモノ
  - 二 身幹五尺以上ニシテ職務ニ害アル疾病ナキモノ
  - 三 三十一年以上奉職差支ナキモノ
  - 四 身元引受人二名アルモノ



五 監獄ニ關スル法律規則ノ類ヲ誦讀シ其意義ヲ解シ得ルモノ  
 六 普通ノ往復文ヲ作り得ルモノ  
 七 加減若クハ容易ナル乗除ヲ爲シ得ルモノ  
 八 字樣過拙通讀シ難キニ至ラサルモノ

第三條 左ノ諸件ニ抵觸スルモノハ採用スヘカラス  
 一 重罪ノ刑ニ處セラシ又輕罪重禁錮ノ刑ニ處セラシ若クハ同上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シ  
 單ニ監視ニ付セラレタル者及ヒ輕罪輕禁錮ノ刑ニ處セラシ滿期後五年ヲ經過セサル者但シ  
 舊法ニ依リ施體ノ刑ニ處セラシタル者ハ總テ本文ノ權衡ニ準ス  
 二 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラシタル者  
 三 巡查懲罰例又ハ官吏懲戒例ニ依リ免職後二年ヲ經過セサル者  
 四 身分不相應ノ負債アル者又ハ身代限ノ處分ヲ受テ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者  
 五 酒癖アル者又ハ暴行ノ癖アル者

◎看守被服給與及保存期限  
 ○明治二十年六月十一日北海道廳訓令第六十六號札幌監獄監獄署宛  
 看守被服給與及保存期限ハ明治十九年當廳丙第二號達ニ依ルヘシ  
 ◎看守長其他戒護事務ニ從フモノ賞與方  
 ○明治二十二年五月十八日北海道廳訓令第二十五號監獄署宛  
 看守長其他戒護ノ事務ニ從事スル者ハ本年內務省訓令第一號看守押丁ノ例ニ準シテ賞與スルコト  
 ヲ得

◎看守精勤證書具狀方  
 ○明治二十二年六月五日北海道廳訓令號外典獄宛  
 本年五月內務省訓令第二十一號ニ依リ看守ノ精勤證書ヲ請フ時ハ當人ノ履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

◎看守訓授方  
 ○明治二十三年九月十日北海道廳訓令號外集治監監獄署宛  
 看守ヲシテ職務上必要ノ法令ヲ暗知セシムルヲ要スルハ勿論在監人ノ處遇方ニ就テハ殊ニ能ク會  
 得セシメサルヘカラサルニ由リ別紙ニ概示スルカ如キ事項又ハ實際遭遇シタルトコロノ注意スヘ  
 キ事件ニ據リテ適宜看守長ヲシテ訓授セシムル所アルヘシ

右訓令ス  
 明治二十三年八月二十九日  
 內務大臣伯爵 西 鄉 從 道

(別紙)  
 一 服裝及姿勢ニ關スル心得  
 一 禮式ニ關スル心得  
 一 帶劍ニ關スル心得

訓第五六三號

北 海 道 廳

- 一 立番ニ關スル心得
  - 一 巡警ニ關スル心得
  - 一 交代時ノ心得
  - 一 行狀視察ニ關スル心得
  - 一 作業ノ督勵ニ關スル心得
  - 一 非常變災時ノ心得
  - 一 反獄逃走時ノ心得
  - 一 教誨時ノ心得
  - 一 接見ニ關スル心得
  - 一 護送中ノ心得
  - 一 在監人疾病死亡時ノ心得
  - 一 在監人ノ身軀衣服等搜檢ニ關スル心得
  - 一 監房ノ檢査ニ關スル心得
  - 一 在監人理髮入浴ニ關スル心得
  - 一 在監人ヘノ差入及給與品ニ關スル心得
  - 一 記牒方ノ心得
  - 一 外人ニ對スル注意事項
  - 一 監獄ニ關スル法律命令ノ大要等
- ◎看守教習規則標準

- 明治二十三年十一月六日北海道廳訓令號外集治監宛  
 新ニ採用スル看守ハ別紙教習規則標準ニ依リ獄務ノ要領ヲ訓練シ實務ニ通曉セシムヘキ旨内務大臣ヨリ訓令相成候條右施行手續相定メ届出ヘシ
- (別紙)
- 看守教習規則標準
- 第一條 新ニ採用スル看守ハ先ツ教習シテ後本務ニ従事セシムル者トス
  - 第二條 教官ハ書記看守長ノ中ヲ以テ之ニ充ツヘキモノトス
  - 第三條 授業ハ監獄ノ職務ニ關スル要領ヲ示スモノトス其課目概テ左ノ如シ
- 一 看守及監獄備人分掌例
  - 一 監獄則及施行細則
  - 一 監獄官吏ニ關スル刑法ノ諸條項
  - 一 監獄ニ關スル諸法規ノ大要
  - 一 戒護ノ心得立置、巡警、押送、外役
  - 一 在監人處遇ノ心得
  - 一 在監人行狀檢査ノ心得
  - 一 諸檢査ノ心得身軀、人員、監房、器具、衣服、臥具、差入品
  - 一 非常變災時ノ心得水火風震、反獄逃走
  - 一 役業ニ關スル心得
  - 一 傳染病豫防及患者取扱方心得

- 一 記帳申報ノ心得
  - 一 服裝及帶劍ノ心得
  - 一 禮式及姿勢ノ心得
  - 一 官吏服務規律ノ大要
  - 一 看守懲罰令給助例及警察賞與規則(二十二年訓)ノ大要
  - 一 實習訓練、戒具使用法、消防演習、警備
- 第四條 教習ノ期限ハ二月トス
- 第五條 教習中ノ看守ハ見習ノタメ教官又ハ先任看守ノ指導ヲ以テ實務ニ騰ラシムヘシ
- 第六條 教習期限ノ終ニ於テ修業ノ成績ヲ試験スヘキモノトス
- 第七條 試験ニ於テ及第シタル者ハ直チニ本務ニ服セシメ其落第シタル者ハ仍ホ一ヶ月間練習セシメ更ニ試験ヲ受ケシムルコトアルヘシ
- 看守ヲシテ看守長ノ職務ヲ代理セシムルヲ得ス
- 明治二十三年十月二十八日北海道廳訓令號外集治監、典獄監
- 自今看守ヲシテ看守長ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得ス
- 右訓令ス

○明治二十三年十一月二十七日北海道廳訓令號外集治監、典獄監

本年十月二十八日看守ヲシテ看守長ノ職務ヲ代理セシムルヲ得サル旨訓令及候處看守長寡少ニシテ看守ノ監督行届キ難ク實際差支ノ場合ハ看守ヲシテ其本務ノ旁ヲ看守勤務上ノ監督ヲ補助セシ

ムル儀ハ苦シカラズ

囚徒ニ關スル規程、囚徒押送、懲治場入手續

〔沿革〕沿革目錄ニ詳ニス

○軍人軍屬犯罪者軍法會議又ハ營所ヨリ依頼ノ分モ遞傳護送ヲ取計ハシム

○明治十八年三月二十七日札幌縣丙第十一號達警察署及分署宛

軍人軍屬ノ犯罪遞傳護送ノ義ハ脱走軍人軍屬ノ外ハ不取扱等ニ候處自今陸軍々法會議又ハ營所等

ヨリ依頼有之分ニ限リ囚人護送手續ニ準シ遞傳護送方取計フヘシ

但護送者旅費日當並囚人ニ屬スル一切ノ費用ハ別途下渡可相成等ニ付其都度仕譯書ヲ添ヘ請求

スヘシ

右相違候事

○海軍々人軍屬ノ罪犯遞傳護送方

○明治十八年九月十二日札幌縣丙第四十四號達警察署及分署宛

本年三月第十一號ヲ以テ軍人軍屬ノ罪犯遞傳護送方ノ義ニ付相違候處海軍々人軍屬ノ罪犯モ鎮守

府又ハ海軍々法會議等ヨリ依頼有之分ニ限リ右同様遞傳護送方取計ヘシ

右相違候事

○私費橋梁等警部巡查制服着用看守押丁囚人護送ノ節賞錢請求ナラス

○明治十九年三月二十九日北海道廳甲第二號布達

橋梁渡津等賞錢請求ノ許可ヲ受ケタルモノト雖モ警部巡查ハ持區内外ニ拘ハラズ制服着用ノ節看守押丁ハ囚人護送ノ時ニ限リ囚人ニ對スル賞錢共總テ請求相成ラス

但巡查ニシテ囚人ヲ護送スル場合モ亦全シ  
右布達ス

○舊刑法處斷ノ囚徒裁判確定ノ後押送及收監手續

○明治十九年七月三十日北海道廳丙第十號達<sup>本支廳</sup>宛

舊刑法ニテ處斷セラレタル懲役終身及徒流刑ニ處セラレタル囚徒裁判確定セシトキハ之ヲ管束セ  
シ地方ヨリ左ノ押送區分ニ從ヒ集治監ニ押送シ集治監ハ收監濟ノ上左ノ書式ニ從ヒ其都度届出ヘ  
シ

但集治監ノ都合ニヨリ典獄ヨリ押送ノ延期ヲ本支廳ヘ通知スルコトアルヘシ  
右相達ス

押送地方ノ區分

- 一 空知集治監 札幌本廳
- 一 樺戸集治監 函館支廳
- 一 釧路集治監 根室支廳

書式

囚徒收監御届

某管下國郡町村何番地

族籍 何ノ某

何署ヨリ押送

刑名 刑期

明治何年何月何日宣告

○假留監ヨリ押送囚ヲ除クノ外收監スヘキ囚徒押送費支拂方

○明治二十三年九月二十七日北海道廳訓令號外<sup>空知樺戸宛</sup>

假留監ヨリ押送スル囚徒ニ係ルモノヲ除クノ外其監ヘ收監スヘキ囚徒ニ係ル管内ノ押送費ハ其監  
ニ於テ支拂フヘシ

但既往ニ屬スル支拂未済金額モ本文ニ準據スル義ト心得ヘシ

第十七類

學校廢置 幼稚園 書籍館

〔沿革〕明治八年三月開拓使函館支廳元第二十六號布達ヲ以函館區ニ於テ私學ヲ開ク者ハ許可ヲ經シム○十一年十二月全廳第四百四號達公立學校設立伺書式ヲ定ム○十四年四月全廳第二百五號布達私學開業規則ヲ定ム○十五年六月根室縣甲第二十八號布達ヲ以町村立私立小學校設置廢止規則ヲ定ム○十六年四月函館縣甲第二十號布達學校幼稚園書籍館規則ヲ定ム○十五年五月札幌縣甲第二十一號布達學事規則ヲ定ム○十八年根室縣甲第二十七號布達町村立私立書籍館設置廢止規則ヲ定ム○二十年四月七日北海道廳令第十八號ヲ以テ町村立私立學校設置變更廢止規程ヲ定ム

○町村立私立學校設置變更廢止規程

○明治二十年四月七日北海道廳令第十八號

町村立私立學校ノ設置變更廢止規程左ノ通定ム

學校設置變更廢止規程

第一條 町村立學校ヲ設置セントスルトキハ左ノ各項ヲ具シ戶長（郡區長ニ於テ戶長ノ職務ヲ行フ箇所ハ郡區長）ヨリ郡長ヲ經テ長官ニ伺出ヘシ

一 設置ノ目的（小學校ハ之ヲ除ク）

一 關係ノ町村名戸數入員

一 校名

一 位置

一 教則校則試驗規則授業料及其他一切ノ諸規則(小學校ハ之ヲ除ク)

一 教員員數俸額

一 生徒概數

一 校舍敷地坪數ノ圖面

一 維持法

第二條 町村立學校ノ組織及等科ヲ變更シ又ハ廢止セントスルトキハ區會若クハ區町村總代人會ノ評決ヲ取リ其變更又ハ廢止セントスル事由及資産處分方法ヲ具シ戶長(郡區長ニ於テ戶長ノ職ヲ行フ箇所ハ郡區長)ヨリ郡長ヲ經テ長官ニ伺出ツヘシ

第三條 私立學校ヲ設置セントスルハ左ノ各項ヲ具シ戶長(郡區長ニ於テ戶長ノ職ヲ行フ箇所ハ郡區長)ノ與書ヲ經テ長官ニ伺出ツヘク設置後目的ヲ變更シ若クハ校主交替セントスルハ同上手續ヲ經テ伺出其他ノ變更及廢止ハ上申スヘシ

一 設置ノ目的

一 校名

一 位置

一 教則校則試驗規則授業料及其他一切ノ諸規則(小學校ハ授業料ノ外ハ之ヲ除ク)

一 校主(教員ノ共設ニ係ル者ハ其總代人一名)校長教員履歷書

一 生徒概數

一 校舍敷地ノ坪數圖面

第四條 此規程ハ町村立及私立書籍館幼稚園ニモ適用スヘキモノトス

小學校

〔沿革〕明治六年八月開拓使函館支廳第九號達ヲ以テ繼則中學尋常小學校各一校ヲ設置ス○全年九月全使札幌本廳九ノ三號達鄉校學ノ唱ヲ廢シ教育所ト稱ス○九年全使根室支廳第十七號達花咲學校設立○十二年二月全使函館支廳第十三號達小學校則改正○全年全廳第十五號達各校授業料收入概則ヲ定ム○全年三月全使根室支廳丙第十五號達ヲ以テ全上規則ヲ定ム○全年五月全使札幌本廳甲第二十號布達小學校則并變更則小學校教則及試驗規則ヲ定ム○十三年一月全廳達甲第四號布達小學校則及教則ヲ定ム○全年三月全使函館支廳第二十二號布達ヲ以テ小學校則及教則改正○全年七月全廳第七十六號達ヲ以テ公立小學校及巡回學校設置手續ヲ定ム○全年七月全使根室支廳乙第十三號達花咲學校備書籍貸與規則ヲ定ム○全年九月全廳丙第五十五號達小學校則ヲ定ム○全年十月全使函館支廳第九十號達ヲ以テ函館福山江差市街ヲ除クノ外變更則教則ヲ履行セシム○全年十一月全廳第九十六號達公立小學校集合試驗規則ヲ定ム○十四年六月全廳第三十四號布達函館區女子小學校則ヲ定ム○十五年八月函館縣甲第二十八號布達ヲ以テ教育令ヲ實施ス○十六年三月全縣甲第十三號布達小學校教則及校則乙第十號達小學校職員規則ヲ制定ス○全年四月根室縣甲第十三號

布達小學校教則及校則ヲ定ム○全年五月札幌縣甲第十七號布達小學校規則ヲ定ム○全年七月根室縣乙第六號達町村立小學校職員規則月俸規則旅費規則乙第五百五十四號達官吏懲戒例及服務規律公立學校長教員等へ適用セシム○全年全月函館縣乙第六十號達同上○十七年六月函館縣乙第三十七號達小學校生徒褒賞狀授與規則ヲ定ム○全年八月札幌縣乙第二百九號達ヲ以小學校ニテ體操科ヲ實施セシム○十九年二月根室縣乙第十三號達町村立小學校授業料徵收規則ヲ定ム○二十年四月北海道廳令第十六號ヲ以小學校規則及小學簡易科教則ヲ定ム

○小學校規則及簡易科教則

○明治二十年四月七日北海道廳令第十六號

小學校規則及小學簡易科教則左ノ通定ム

但當分小學校教科用圖書ハ元函館札幌根室三縣ノ定ムル所ニ依リ又小學簡易科教科用圖書ハ其初等科ノ分ニ依ル

小學校規則

第一章 學科程度

第一條 小學校ノ學科程度ノ配當ハ別表ノ定ムルトコロニ依ル

第二條 尋常小學校ニ於テハ修業年限四ヶ年ノ外溫習科ヲ設ケ六ヶ月以上十二ヶ月以内既修ノ學科ヲ溫習シ且之ヲ補修セシムヘシ

第三條 高等小學校ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ英語ノ一科ヲ加フルコトヲ得其課程ハ別表未欄定ム

ル所ニ依ル

但本文ノ場合ニ於テハ戶長郡區長ニ於テ戶長ノ職務ヲ行フ箇所ハ郡區長下之ニ依リヨリ郡長ヲ經長官ニ伺出ヘシ

第二章 學年及休日

第四條 小學校ノ學年ハ九月一日ニ始マリ翌年八月三十一日ニ終ル之ヲ一學年トス

第五條 小學校ノ休業定日左ノコトシ

日曜日

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

歳末歳始

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

札幌神社祭

夏季休業

鎮守祭日

夏季休業ハ土地ノ狀況ニヨリ生業繁忙ノ季節又ハ寒中ヲ以テ之ニ換フルヲ得但此場合ニ於テ

秋分日

十月十七日

十一月三日

十一月二十三日

自十二月二十六日

至一月十六日

一月三十日

二月十一日

春分日

四月三日

六月十五日

自八月一日

至全月三十一日





式書號壹第

番號	證
校印	北海道華士族平民
姓名	姓 名
年 齡	年 齡
高等小學校第何年修業候事	
年 月 日	
北海道國郡區	
何小學校	

式書號貳第

番號	證
校印	北海道華士族平民
姓名	姓 名
年 齡	年 齡
高等小學校卒業候事	
年 月 日	
北海道國郡區	
何小學校	

第四章 賞與

第十七條 試驗賞與ヲ別テ左ノ三種トス  
 一 等賞 價五拾錢以下貳拾錢以上ノ物品  
 大試驗各學科通約數高等小學校ニ於テハ九十三點以上尋常小學校ニ於テハ九十六點以上ヲ得且品行端正出席皆勤ノ者ニ授與ス  
 二 等賞 價三拾錢以下拾五錢以上ノ物品  
 大試驗各學科通約數高等小學校ニ於テハ九十點以上尋常小學校ニ於テハ九十三點以上ヲ得且罰例ニ觸ラズシテ欠席十日以内ノモノニ授與ス

三等賞 價貳拾錢以下五錢以上ノ物品

大試驗各學科通約數高等小學校ニ於テハ八十七點以上尋常小學校ニ於テハ九十點以上ヲ得且罰例ニ觸ル、モ一時ノ戒諭ニ止リ欠席二十日以内ノ者ニ授與ス

第五章 罰例

第十八條 生徒規則ヲ犯シ或ハ不良ノ行為アルトキハ其輕重ヲ量リ左ノ罰例ニ從フ

- 一 戒諭 教員生徒ヲ一室ニ引置シ懇々其行為ノ不善ヲ戒メ勉メテ反省ノ念ヲ起サシム
- 一 留置 數度戒諭ヲ加フルモ其効少キモノニ放課後一時間以内校中ニ留置キ反省悔悟ノ情ヲ起サシム
- 一 不良通知 誠諭留置共ニ其効ナク遂ニ全校ノ害トナルヘキモノト認ムル以上ハ亦止テ得サルヲ以テ父母又ハ後見人ニ其旨ヲ通知ス

尋常小學校ノ學科程度配當表

學科	第一 年		第二 年		第三 年		第四 年		授業時間合計
	上全	上全	上全	上全	上全	上全	上全		
修身	三	三	三	三	三	三	三	六	
讀書	六	六	六	六	六	六	六	六	
算術	六	六	六	六	六	六	六	六	
國語	六	六	六	六	六	六	六	六	
理科	六	六	六	六	六	六	六	六	
音樂	六	六	六	六	六	六	六	六	
體育	六	六	六	六	六	六	六	六	
勞作	六	六	六	六	六	六	六	六	
英語	六	六	六	六	六	六	六	六	
其他	六	六	六	六	六	六	六	六	





習字 三時

算術 六時

但授業時間ヲ四時以上ニ伸長スルトキハ學科ニ應シ郡區長ニ於テ適宜之ヲ配當スヘシ  
第九條 各學科ノ程度左ノ如シ

讀書 假名、假名ノ單語短句及簡易ナル漢字交リ文

作文 假名ノ單語短句簡易ナル漢字交リ文及口上書類日用書類

習字 假名行書日用文字口上書類日用書類

算術 實物ノ計方實物ノ加減乘除及數字珠算用法簡易ナル加法減法乘法除法度量衡貨幣雜

題(珠算)

實業演習 土地ノ情況ニ從ヒ實地或ハ談話ニ依リ農漁商工等ノ實業ヲ嗜好スルノ念ヲ開ク

ヲ旨トス又年長ノ女子ニハ裁縫ヲ課スルコトヲ得

修身 簡易ナル事柄日常ノ作法

體操 遊戲、輕體操

第十條 全科修了ノモノハ試驗ヲ施シ及第ノモノニハ左式ノ證書ヲ與フ

但試驗ノ手續ハ尋常小學校ニ準ス

證

校

北海道華士族平民

印

姓

年 齡

小學簡易科卒業候事

年 月 日

北海道何國何郡

立(私)何小學校

◎町村立小學校等科

○明治二十年四月七日北海道廳令第十七號

管下町村立小學校ニ於テ高等科若クハ尋常科ヲ教フヘキモノ左ノ各校トス  
但此他ノ小學校ハ總テ簡易科ヲ教フヘシ

町村立小學校等科

高等小學校

尋常小學校

併置

創成學校

松城小學校

札幌付  
第一分校

彌生小學校

函館

第十七類

小學校

六〇五

尋常小學校

- 量德學校 小樽 寶小學校 函館
- 福山女子小學校 松前 熊野小學校 松前
- 山上小學校 松前 柏樹小學校 檜山
- 花咲小學校 根室

◎小學校授業料金額及徵收規程

○明治二十年四月七日北海道廳令第十九號

町村立小學校生徒授業料金額及其徵收規程左ノ通定ム

町村立小學校生徒授業料金額及其徵收規程

第一條 授業料ノ金額高等科ハ一ヶ月金三拾錢以上登壇以下尋常科ハ一ヶ月金貳拾錢以上五拾錢以下トス

第二條 但小學簡易科ト雖土地ノ情況ニヨリテハ一ヶ月金貳拾五錢以下ノ授業料ヲ徵收スルコトヲ得  
第二條 授業料ノ差等ハ父母後見人ノ資産ニ應シ戶長(郡區長ニ於テハ戶長ノ職務ヲ行フ箇所ハ郡區長)之ヲ指定スルモノトス  
第三條 十五日前ニ退學スルモノ及十六日後ニ入學スルモノハ其月分ノ授業料半額ヲ徵收スルモノトス

第四條 全一ヶ月授業ヲ受ケサルモノハ其月分ノ授業料ヲ徵收セサルモノトス

第五條 一家二人以上就學スルモノ其授業料一人ハ全額其他ハ半額ヲ徵收スルモノトス

第六條 授業料ハ土地ノ情況ニヨリ物品(穀物、薪炭、鹽、干鮑、魚、海味、魚糞、糞等)ヲ以テ時價ニ較算シ徵收スルモ妨クナシ

第七條 授業料ハ父母後見人ノ望ニヨリ數月分前收シ又ハ土地ノ情況ニヨリ年一回若クハ二回物産收穫期節ニ於テ之ヲ徵收スルヲ得

◎小學校職制

○明治二十年四月七日北海道廳令第二十七號

小學校職制左ノ通定ム

小學校職制

- 第一條 學校長ハ校務ヲ整理シ訓導授業生ヲ監督シ教室ノ秩序ヲ保持スルヲ掌ル  
但學校長ヲ缺クハ首座訓導ヲシテ學校長ノ職務ヲ掌ラシム
- 第二條 訓導ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教訓ノ事ヲ掌ル
- 第三條 授業生ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ訓導ニ付屬シ其職掌ヲ助ク
- 第四條 訓導授業生ノ員數ハ學科ノ輕重及生徒ノ員數ニ應シテ之ヲ定ム

◎小學校建築計畫注意方

○明治二十年六月二十二日北海道廳訓令第七十五號郡區役所宛 戶長役場宛

小學校建築ニ就テハ其計畫ノ初メニ於テ精密ノ注意ヲナサ、レハ落成ノ上更ニ修繕模様替等ヲ要スルノ不都合ヲ免レンス且其建築ニ要スル費用モ或ハ其町村内不同意者アルニモ係ハラス殆ソト割付寄付ノ如キ取計ヲナス様ノ事アリテハ不相成ニ付學校建築ノ舉アルニ臨テハ此邊篤ト取調果シテ不都合ナキニ於テハ左ノ數項ヲ具シ認可ヲ經テ着手スヘキ義ト心得ヘシ  
一 敷地ノ坪數敷場ノ區畫並窓戶ノ位置高低等ニ關スル圖面  
二 校舍新築仕樣方法書

三 新築費用並ニ其出途ノ方法

○町村立小學校總テ某小學校ト稱セシム

○明治二十年八月二十七日訓令第四百四號(郡區役所宛)

町村立小學校ハ自今總テ某小學校ト稱スヘシ

○小學校教科用圖書及參考圖書

○明治二十一年一月二十六日北海道廳令第三號

小學校教科用圖書及參考用圖書左ノ通定ム

小學校教科用圖書表

圖書名	卷冊記號	出版或ハ版權	著者氏名	出版者氏名
簡易科讀書之部				
普通讀本	一編至上下六冊	明治二十年三月	東京府平民 高橋熊太郎	東京日本橋區通原町十 一丁目 小林八郎
簡易科習字之部				
新小學校習字帖	卷一至卷六六冊 (楷書ヲ除ク)	明治十九年十二月二十三日校正	千葉縣平民 鈴木貞次郎	東京日本橋區本町三丁目 十七番地 原亮三郎
簡易科算術之部				
小學珠算全書	六冊	明治二十年三月二十日校正	福島縣平民 安積五郎 新潟縣士族 黒田定治	東京日本橋區本町三丁目 十七番地 原亮三郎
小學珠算全書附圖	三冊	全	全	全

圖書名	卷冊記號	出版或ハ版權	著者氏名	出版者氏名
尋常科讀書之部				
小學珠算新書	一至四冊	明治二十年三月十五日校正	宮城縣士族 須田 要	東京日本橋區本町三丁目 十七番地 阪上平七
尋常科習字之部				
新小學校習字帖	卷一至卷八八冊 (楷書ヲ除ク)	明治十九年十二月二十三日校正	千葉縣平民 鈴木貞次郎	東京日本橋區本町三丁目 十七番地 原亮三郎
尋常科算術之部				
小學珠算全書	六冊	明治二十年三月二十日校正	福島縣平民 安積五郎 新潟縣士族 黒田定治	東京日本橋區本町三丁目 十七番地 原亮三郎
小學珠算全書附圖	三冊	全	全	全
高等科讀書之部				
增小學校讀本	一至八冊	明治二十年七月二十九日校正	千葉縣平民 内田 嘉一	東京日本橋區本町三丁目 十七番地 原亮三郎
高等科習字之部				
新小學校習字帖	卷六七八楷書ノ 部卷九至卷十二ノ	明治十九年十二月二十三日校正	千葉縣平民 鈴木貞次郎	東京日本橋區本町三丁目 十七番地 原亮三郎
高等科算術之部				

正訂小學算算書	卷之二至卷之六共六冊	明治二十年三月	靜岡縣主旗古川	四	東京日本橋區通旅籠町十一番地 小林八郎
簿記用書	未定				
高等科地理之部					
新撰地誌	三四冊	明治廿年一月廿一日訂正全年五月三十日訂正	東京府平民岡村增太郎		東京日本橋區本町四丁目十六番地 小林義則
高等科歷史之部					
國史紀要	上下中三冊	明治二十年一月二十日訂正	東京府平民岡本	監輔	東京京橋區瀧山町四番地 大野葵進
高等科理科之部					
小學理科書	卷一至四冊	明治二十年七月二十六日訂正	福井縣士族小野	太郎	東京日本橋區通旅籠町十一番地 小林八郎
高等科圖書之部					
普通小學書櫛梯	前編一冊 後編一冊 拾冊	明治十九年七月二十四日	長野縣平民岡村	政子	東京京橋區加賀町一丁目一番地 岡村竹四郎
高等科英語之部					
未定					

一 讀書習字歷史圖書ノ用書ハ生徒ヲシテ各自携帶セシムルモノトス  
 一 簡易科及尋常科算術ノ用書ハ小學珠算全書小學珠算新書ノ内其一ニ據リ教授スルモノト

圖書名	卷冊記號	出版年月	著者氏名	出版者氏名
小學作文書	第一至第四及教授法五冊	明治十九年八月	三宅米吉	東京日本橋區本町三丁目十七番地 原亮三郎
小學作文全書	各上下八十六冊	明治十六年十月	文學社	東京日本橋區本町四丁目十六番地 文學社
新小學作文書	初等科ノ部一至六冊	明治十八年一月	稻垣千穎	東京本郷區元町一丁目五番地 原田庄左衛門
尋常科修身之部				
普通小學作法書	卷一至六冊	明治十九年三月	増山守正	東京日本橋區通旅籠町十一番地 小林八郎
錦繪修身談	卷一至六冊	明治十七年七月	山名留三郎	東京下谷區藤原町十四番地 辻敬之
修身教場掛圖	全二十五軸	明治十九年十二月	全	全
普通小學修身談	一至四冊	明治十九年七月	前丹所啓行	東京日本橋區通旅籠町十一番地 小林八郎
尋常科作文之部				

一 地理及理科ノ用書ハ生徒誦讀用ニ充ツル爲ニ非ス教師之ニ據リ口授スルモノトス  
 一 小學校教科參考用圖書表





日本暗射分圖	七	軸	明治十五年七月	大槻修二	東京遠草區榮久町二十三番地
万国暗射圖	一	軸	明治十七年十二月	山田行元	東京日本橋區本町四丁目十六番地
万国地圖略	六	軸	明治十九年	土方幸勝	東京南鍋町一丁目五番地
六大洲暗射圖			五月至九月		西洋平

六一四

○明治二十一年二月十日北海道廳訓令第十四號那區役所宛

明治二十一年一月北海道廳令第三號ヲ以テ定メタル小學校教科用圖書ハ之ヲ課スヘキ最下ノ學級ヨリ用ヒシメ其他ノ學級ニハ從來ノ教科用圖書ヲ兼用セシメ漸次各學級ヲシテ新舊交換セシムヘシ

○小學校ニ準スヘキ町村立學校職制及職員俸額

○明治二十二年五月八日北海道廳令第三十一號

小學校ニ準スヘキ等位ノ町村立諸學校職制及職員俸額ハ明治二十年四月北海道廳令第二十七號小學校職制及同廳令第二十八號小學校職員俸額ニ據ル

○小學簡易科授業法講習會規則

○明治二十二年七月二十六日北海道廳訓令第三十八號那區役所宛

小學簡易科授業法講習會規則左ノ通定ム

第一條 本會ハ現在職ノ簡易科公立小學校教員小學校教員員許狀ヲ有スル者及其資格ニ該當スル者ヲ除ク及授業生ニ教育ノ原理學

校管理法教授術ヲ講習スル爲ニ設ク

第二條 講習生ハ一會凡三十五名トシ開會期日場所及講習生員數ハ其時々第一部長ヨリ那區長ニ通報セシム

第三條 講習生ニハ特ニ本職相當ノ往復途上旅費及講習中手當トシテ一日金貳拾錢ヲ支給ス

第四條 講習ヲ完了シタル者ニハ其證明書ヲ交付ス

師範學校

(沿革)明治八年七月開拓使函館支應元第九十一號布達ヲ以小學校科傳習所就學心得

ヲ定ム○九年七月全使札幌本應丙第九十號達第一學校ニテ小學校則テ傳習ス

○全十年三月全廳甲第十八號布達小學校科傳習所就學心得ヲ定ム○十三年十一月

全使函館支應第九十五號達傳習所ヲ師範學校ト改稱教諭ヲ置ク○十五年十月

函館縣乙第三十六號達師範學校職制職員俸額月俸旅費支給方ヲ定ム○十六年

五月札幌縣丁第百二號告示ヲ以テ縣立師範學校設置○全年全縣乙第六十六

號師範學校長以下准官等并職制ヲ定ム○全年六月全縣乙第八十三號師範學校

規則ヲ定ム○十九年三月北海道廳庚第三號告示ヲ以テ札幌縣師範學校ヲ廳立

トシ名稱ヲ定ム○全年九月全廳庚第十三號告示ヲ以テ札幌函館兩師範學校ヲ廢

シ尋常師範學校ヲ札幌ニ設置ス

○尋常師範學校設置

○明治十九年九月十七日北海道廳庚第十三號告示

札幌函館兩師範學校ヲ廢シ更ニ尋常師範學校ヲ石狩國札幌區北一條西三丁目ニ設置シ北海道尋常師範學校ト稱ス

○師範學校ニ於テ文部省令第九號ノ學科及程度實施方法

明治十九年十月二十六日北海道廳甲第十二號布達

北海道尋常師範學校ニ於テ文部省令第九號尋常師範學校ノ學科及其程度ヲ實施スル方法ヲ定ムル  
左ノ如シ  
右布達ス

學年及休業

第一條 學年ハ四月一日ヨリ三月三十一日ニ終ル

第二條 授業時間ハ一年凡四十四週一週三十四時トス

但第四年實地授業ハ附屬小學校ノ授業時間ニ據ル

第三條 年中休業日左ノ如シ

日曜日

土曜日 半日

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

札幌神社祭

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節  
新春祭  
夏季  
冬季

自八月一日  
至八月三十一日  
自十二月十六日  
至翌年一月十日

試業及證書

第四條 試業ハ臨時試業定時試業ノ二種トス

第五條 臨時試業ハ生徒ノ各學科進歩ノ程度ヲ計リ一學年内五度以上八度以下臨時ニ之ヲ行フモ  
ノトス

第六條 定時試業ハ每學年ノ終リニ於テ豫メ時日ヲ定メ其學年中ニ履修セシ學科ノ全跡ヲ試験ス  
ルモノトス

第七條 總テ試業ノ評點ハ各學科一百ヲ以テ定點トシ其考課目問題ノ難易ニ應シテ之ヲ配當シ試  
業ノ成績ニ依テ之ヲ加減スルモノトス

第八條 臨時試業ノ評點ヲ調査スルニハ先ツ各學科ノ得點數ヲ定メ更ニ之ヲ合計シテ學科ノ數ヲ  
以テ之ヲ除シ其通約點ヲ定メ席次ヲ進退ス

第九條 定時試業ノ評點ヲ調査スルニハ各學科ノ臨時試業評點ヲ各其度數ニテ通約シ各學科ノ定  
時試業評點ニ加ヘテ折半シ各學科ノ得點數ヲ定メ又之ヲ合計シテ更ニ學科ノ數ヲ以テ之ヲ除シ  
通約點ヲ定ム

第十條 定時試業ニ於テ及落ヲ判スルニハ各學科ノ得點五十以上通約點六十以上ノモノヲ及第ト  
シ以下ヲ落第トス

但落第二度ニ及フモノハ退校ヲ命ス  
 第十一條 總テ試業ニ依席セシモノハ再ヒ試業ヲ行ハサルモノトス  
 但時宜ニヨリ特別ノ處分ヲ爲スコアルヘシ  
 第十二條 卒業ノ證書ハ優等尋常ノ二等トナシ各學級評點七十以上ニシテ通約平均點八十以上ヲ  
 優等トシ以下ヲ尋常トス  
 第十三條 定時試業及第ノモノニ左式ノ證書ヲ授與ス

番號	證
割印	姓 名
	年 齡
	尋常師範學科第何年ノ修業ヲ證ス
	明治年月日
	北海道尋常師範學校 印

番號	證
割印	姓 名
	年 齡
	尋常師範學科優等卒業證書ヲ授與ス
	明治年月日
	北海道尋常師範學校長姓名印

○師範學校教科用圖書假定  
 ○明治十九年十月二十二日北海道廳無號達師範學校宛

其校ノ教科用圖書左ノ通假定ス  
 右相達ス

(圖書名ハ北海道廳甲第十四號布達ニ全シ略ス)  
 ○明治十九年十二月十五日北海道廳甲第十四號布達  
 北海道師範學校教科用圖書左ノ通假定ス  
 右布達ス

北海道師範學校教科用圖書  
 倫 理  
 小 學 朱熹編  
 論語 朱熹集註  
 大學 朱熹章句  
 中庸 全  
 道義學 福富孝季譯  
 教育學 伊澤修二著  
 如氏教育學 有賀長雄譯  
 學校管理法 伊澤修二著  
 學校管理法 シヨセフヲト原著  
 日本教育史畧 外山正二譯  
 那珂通海訂

巴氏教育史	改正教授術	國語	平山成信譯
語彙活語指掌	語彙別記	國語	若林虎三郎編纂 白井毅編纂
和文讀本	正本朝文範	漢文	文部省編輯寮編纂 全
正文章軌範	謝選拾遺	漢文	稻垣千穎輯 稻垣千穎編纂 松岡太恩編纂
唐宋八大家文讀本	孟子	漢文	謝枋得批選 賴襄選 沈德潛評點 朱熹集註
綴字書	第一讀本	英語	ウエブストル著
第二讀本	第三讀本	英語	サングルス著
第四讀本	第五讀本	英語	全 全 全 チャンプル著

習字本	英文法書	英文法書	フ井リツプ書
作文新書	作文修辭書	英文學書	コックス著 アラウン著 スウヤントン著 クエツケンボス著 クイリア著 マコーレー著
算算摘要	新珠算精法	幾何教科書上	神津道太郎譯 駒野政和著 田中矢德編輯 全
馬耳記簿法	新中地理書	地理歷史	小林儀秀譯
改訂日本地理要略	藤氏地理學	皇朝史略	山田行元編述 大槻修二編 富士谷孝雄譯 青山延子著

日本文明史零 十八史零 明治元明清史略 新選 正萬國史零	博物	物集高見著 曾光之編 石村貞一編次 西村茂樹編輯
植物通解 動物通解 弗氏生理書 金石學 植物解明圖 博物解明圖	博物	矢田部良吉譯 岩川友太郎編 佐々木忠次郎編 坪井爲春譯 和田維四郎譯 ハンスロー シヨンストン
士都華氏物理學 中學化學書	物理化學	川本清一郎譯 磯野德三郎編述
農業學初步 植物生育論 農用家畜論 工場用具論	農業手工	久原躬隆譯 高山武太郎譯 磯野德三郎譯 大内三郎譯 今井秀之助譯 山田要吉譯

勸業理財學	習字圖書	高橋是清譯
眞書千字文 行書千字文 草書千字文 小學習書帖 用器書法並圖式	習字圖書	卷 菱湖書 全 文部省編輯局編 平瀬作五郎纂譯
小學唱歌集 唱歌掛圖 樂典	音樂	文部省音樂取調掛編 全 神津元譯
新體操書 步兵操典 野外演習軌典 射的教程	體操	文部省跡操傳習所編 陸軍省編 全 全

◎師範學校附屬小學校條規  
 ○明治十九年十月二十三日北海道廳無號達師範學校宛  
 其校附屬小學校ニ於テハ左ノ各條ニ從フヘシ

右相達ス

第一條 師範學校附屬小學校ハ師範生徒ヲシテ實地授業ノ方法及ヒ教育上諸般ノ事務ヲ熟達練習セシメ兼テ管内小學校ノ模範ヲ示ス所トス

第二條 生徒ノ定員ハ凡百八拾名トス

第三條 學年及ヒ休業日等ハ本校ト同様ナルヘシ

第四條 生徒ノ入學ハ欠員アル毎ニ本校ヨリ其人員及ヒ期日ヲ廣告シ試驗ノ上之ヲ許可スヘシ

第五條 三ヶ月以上欠席ノ生徒若シハ無届三週日以上出席セサル生徒ハ除名スヘシ

第六條 事故アリテ退學セントスル生徒ハ父母或ハ後見人ヨリ其理由ヲ認メ願出テシムヘシ

◎師範學校卒業者服務ノ狀況該學校ニ報告方

○明治十九年四月十三日北海道廳根室支廳乙第十七號達郡役所、戶長役場宛

師範學校ノ卒業生ニシテ就職ニ從事スル者ハ自今毎六ヶ月其服務ノ狀況ヲ該學校ニ報告セシムヘク尤モ既廢ニ係ル官立師範學校ノ卒業者ハ東京師範學校ニ同府縣立師範學校ノ卒業者ハ其學校ノ在リシ地方ノ所屬府縣立師範學校ニ報告セシムヘキ義ト心得ヘシ

右相達ス

○明治十九年四月二十四日北海道廳己第四十三號達郡區役所、支廳管轄(内ヶ除ク)宛

師範學校卒業者ニシテ就職ニ從事スル者ハ自今毎六ヶ月其服務ノ狀況ヲ該學校ニ報告セシムヘシ但既廢ニ係ル官立師範學校ノ卒業者ハ東京師範學校ニ全府縣立師範學校ノ卒業者ハ其學校ノ在リシ地方ノ所屬府縣立師範學校ニ報告セシムヘシ

右相達ス

○明治十九年四月二十八日北海道廳函館支廳丁第十七號達函館師範學校宛

師範學校卒業者服務ノ狀況報告方ノ義本年四月第六號文部省令ノ通可相心得此旨相達候事

◎師範學校簡易學科規則及生徒定員入學年齡

○明治二十年四月三十日北海道廳令第四十三號

北海道尋常師範學校内ニ左ノ簡易學科ヲ置ク

- 北海道尋常師範學校簡易學科規則
- 第一條 簡易學科ヲ倫理教育國語漢文數學地理歷史博物農業手工習字圖書體操トス
- 第二條 簡易學科ノ程度左ノ如シ
- 倫理 人倫道德ノ要旨
  - 教育 總論智育體育ノ理學校ノ設置編制管理ノ方法各學科ノ教授法及實地授業
  - 國語 支那ノ文法文學ノ要畧
  - 漢文
  - 數學
  - 地理歷史
  - 博物
  - 農業手工
  - 習字圖書
  - 體操

右國語及數學以下ハ尋常師範學科第一年ノ科程  
 第三條 簡易學科ノ修業年限ヲ一年凡四十週一週三十四時トス  
 但實地授業ハ本條ノ外トシ三ヶ月乃至六ヶ月間附屬小學校ニ於テ其業ヲ練磨セシム  
 第四條 簡易學科ノ授業時間配當ハ左表ニ依ル

學科	倫理	教育	國語	漢文	數學	地理	博物	手工	工業	習字	體操	合計	實地授業
時間	一	三	三	六	四	三	二	二	四	六	三四		

第五條 簡易學科生徒ノ募集ハ明治十九年文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則ニ準ス  
 第六條 簡易學科卒業生ノ服務ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三ヶ年トシ其間道廳長官指定ノ簡易科小學校教員ノ職ニ從事スヘキ義務アルモノトス  
 但郡區長ノ薦舉ニ係ル生徒ハ本文ニ準シ其郡區長指定ノ簡易科小學校ニ奉職スルノ義務アルモノトス  
 第七條 第六條及但書ノ義務盡ス能ハサルノ事故アルモノハ其理由ヲ具シ道廳長官ノ指揮ヲ請フヘシ

○明治二十年五月二十四日北海道廳訓令號外師範學校宛  
 其校生徒定員ヲ七十名トス當分其區別左ノ割合ニ從フヘシ  
 一 尋常師範學科 定員ノ半數以下  
 一 簡易學科 定員ノ半數以上

○明治二十年五月三十一日北海道廳訓令號外師範學校宛

其校簡易學科生徒入學年齡ハ十九年以上四十年以下タルヘシ

○師範學校及商業學校生徒操行査定方法

○明治二十一年五月十一日北海道廳令第三十六號

北海道尋常師範學校及函館商業學校生徒操行査定方法左ノ通定ム

第一條 生徒平素ノ操行ハ學校職員之ヲ査定シ每學年末ニ最上ノモノヲ一百點トシ遞次其差等ヲ附シ其得點ヲ最終ノ學年末ニ通計シ之ヲ査定ノ度數ヲ以テ通約シ九十點以上ヲ得ルモノヲ優等トシ以下ヲ尋常トシ卒業ノ際左式ノ證書ヲ與フヘシ

尋常師範學科卒業生	姓	名
年	年	年
在學中ノ操行ヲ査定シ優等證書ヲ授與ス	明治	年 月 日
北海道尋常師範學校長	姓	名
割印	印校	印

番號	商業學科卒業生
印校	姓名
	年 齡
在學中ノ操行ヲ査定シ優等ヲ得證書ヲ授與ス	
明治 年 月 日	
函館商業學校長 姓	名印
割印	

第二條 査定ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定ムヘシ

○師範學校及商業學校職員休業中旅行ヲ許ス  
 ○明治二十一年八月十一日北海道廳訓令號外北海道無常師範學校宛  
 其休業中職員校務差支ナキ向ハ其行先及日數届出ノ上旅行苦シカラズ

○師範學校長及商業學校長指揮ヲ長官ニ受ク及處分後開申スヘキ條項  
 ○明治二十一年三月二十七日北海道廳訓令號外師範學校宛  
 校長ハ左ニ記載シタル條件第一項ヨリ第四項迄ハ長官ニ具狀シテ其指揮ヲ受ク第五項以下ハ處分

後開申スヘシ

但明治十九年九月二十八日(師範學校)達校長限リ處分事項ハ廢ス

第一 校員出張ノ事

第二 雇員賞罰ノ事

第三 校內新營及摸樣替ノ事

第四 重大ニ涉ル事件及例規ナキモノ處分ノ事

第五 定期試業成績ノ事

第六 雇員進退ノ事

第七 校務細則制定ノ事

專門學校

〔沿革〕沿革布令目錄ニ詳ニス

○札幌農學校校長委任條項  
 ○明治十九年四月九日北海道廳無號達札幌農學校宛  
 其校長委任條項別紙ノ通相定ム  
 但處分濟其月分翌月五日限リ報告スヘシ  
 右相違ス

(別紙)

一 授業時間ヲ變更スル事

一 校員ノ分擔ヲ定ムル事



- 一 一定限以内ノ生徒募集及入學ノ事
- 一 生徒進退賞罰ノ事
- 一 但本科生徒學ハ此限ニアラス
- 一 生徒ニ卒業證書ヲ付與スル事
- 一 但學位狀ヲ付與スルハ此限ニアラス
- 一 本校經費内ヲ以テ博物見本採集又ハ學科研究ノメニ生徒ニ管内旅行ヲ許可スル事
- 一 生徒野營及近傍行軍演習ヲナサシムル事
- 一 生徒貸與金品成規ヨリ交付スル事
- 一 販賣豫定伺濟範圍内ノ生産物及製造物ヲ賣却スル事
- 一 博物學用見本物品他ノ學校等ト交換スル事
- 一 校務ニ關シ校長若クハ校名ヲ以テ文書往復ノ事
- 一 校員本廳管内出張ノ事
- 一 豫算内ヲ以テ備及現業取扱入以下進退ノ事
- 一 校務取扱細則ノ事
- 一 博物場縦覽日時ヲ定限スル事
- 一 校員生徒並札幌卒業生ヘ書籍借覽差許ノ事
- 一 相當代品等展入ノ約ヲ以テ分析ノ依頼ニ應スル事
- 一 他管廳又ハ人民所有ノ物品博物場ヘ陳列ヲ許可スル事
- 一 本校所屬家畜交尾願ヲ許否スル事

六三〇

○札幌農學校々則  
 明治二十二年九月十九日北海道廳令第五十六號  
 明治二十年三月北海道廳令第八號札幌農學校校則左ノ通改定ス

札幌農學校校則  
 第一章 總則

- 第一條 札幌農學校ニ農學科ヲ置キ農學ノ理論及實業ヲ教授ス
- 第二條 札幌農學校ニ工學科ヲ置キ土木工學ニ關スル學業ヲ教授ス
- 第三條 札幌農學校ニ兵學科ヲ置キ軍事ニ關スル學術ヲ教授ス
- 第四條 札幌農學校ニ豫科ヲ置キ普通學科ヲ教授ス
- 第五條 札幌農學校ニ農藝傳習科ヲ置キ實地ニ就キ模範農業ヲ傳習シ且邦語ヲ以テ農學ヲ講授ス
- 第六條 農學科工學科及兵學科修業ノ者ハ學生ト稱シ豫科及農藝傳習科修業ノ者ハ生徒ト稱ス
- 第七條 修業年限ハ農學科及工學科ヲ四年トシ兵學科ヲ一年トシ豫科ヲ五年トシ農藝傳習科ヲ二年トシ各一學年ヲ一學級トス
- 第八條 農學科及工學科ニ於テハ前三學年ハ專ラ學術ヲ教授シ後一學年ハ專ラ實務ヲ練習セシム
- 第九條 兵學科學生ハ農學科第二學年ノ課程ヲ終ヘタル學生中屯田兵士官出身志願ノモノヲ以テス
- 第十條 授業準則試驗細則學生生徒心得舍則教官會議細則書籍館規則教授用器械取扱規則各學科課目ノ時間割ハ農學校長別ニ之ヲ定ム

第二章 學科課目

第十七類 專門學校

六三一

第十一條 農學科ニ於テ修業スヘキ課目ハ大約左ノ如シ

- 一 農學
- 二 化學
- 三 植物學
- 四 動物學及昆蟲學
- 五 獸醫學及實驗
- 六 水產學
- 七 森林學
- 八 地質學
- 九 幾何學三角術測量學及晝學
- 十 物理學
- 十一 經濟原論及農業經濟學
- 十二 農政學及殖民史
- 十三 練兵
- 十四 英語及獨逸語

第十二條 工學科ニ於テ修業スヘキ課目ハ大約左ノ如シ

- 一 幾何學三角術微分及積分
- 二 測量學及實測
- 三 晝學及製圖

- 四 重學
- 五 物理學
- 六 水利工學
- 七 造營工學
- 八 土木工學及實習
- 九 地質學
- 十 無機化學
- 十一 經濟原論及工業經濟史
- 十二 練兵
- 十三 英語及獨逸語

第十三條 兵學科ニ於テ修業スヘキ課目ハ大約左ノ如シ

- 一 戰術學
- 二 軍制學
- 三 兵器學
- 四 築城學
- 五 地形學
- 六 地理圖
- 七 練兵、作業
- 八 射擊學

大意 大意

九 躰操、劍術  
 十 諸勤務ノ訓誡 内務 軍紀 備戍 勤務 銃 其他武器ノ使用法等  
 第十四條 豫科ニ於テ修業スヘキ課目ハ大約左ノ如シ  
 一 倫理 八倫道德ノ要旨  
 二 國語及漢文 講讀 作文 書取  
 三 英語 讀法 譯解 書取 作文 會話 文法 修辭 反譯  
 四 農業 耕種 養畜 園藝  
 五 地理及地文 日本地理 万国地理 地形地理  
 六 歴史 日本歴史 漢土朝鮮歴史 万国歴史 近世史  
 七 數學 算術 代數 幾何 三角術  
 八 博物 大意  
 九 理化學 大意  
 十 習字 楷行草 三牀  
 十一 圖書 自在書法・器械書法  
 十二 唱歌 單音 複音  
 十三 躰操 普通躰操 兵式躰操  
 第十五條 農藝傳習科ニ於テ修業スヘキ課目ハ大約左ノ如シ  
 一 實業 耕馬便役 農具使用 家畜飼養 肥料製造 穀類及蔬菜類ノ耕種 收穫及時藏 排水及開墾 苗木立及移植 乾草法 果樹栽培 種子ノ耕種 收入及時藏 蠶絲製造 製麻 澱粉製造 果實糖漬法及醃造法 製乳搾乳 其他

一 學課 臨時野樂  
 土壤農具及肥料論 排水及開墾法 農務管理法 農用植物生理 果樹栽培法 動物生理學 化學原理 牧畜論  
 普通及特用作物耕種法 農圃測量術 病害治療法 貯藏法 害蟲驅除法 農業經濟  
 第三章 學曆  
 第十六條 農學科工學科兵學科及豫科ノ學年ハ九月一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル  
 第十七條 農學科工學科兵學科及豫科ノ學年ヲ分テテ前後二期トナス前期ハ九月一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ後期ハ一月十日ヨリ七月十日ニ終ル  
 第十八條 農學科工學科兵學科及豫科ノ休業期日ハ左ノ如シ  
 一 冬期休業 自十二月二十五日 至一月九日  
 一 春期休業 自四月第四日 至四月十五日  
 一 夏期休業 自七月十一日 至八月三十一日  
 一 孝明天皇祭 一月三十日  
 一 紀元節 二月十一日  
 一 春季皇靈祭 春分日  
 一 神武天皇祭 四月三日  
 一 秋季皇靈祭 秋分日  
 一 神嘗祭 十月十七日  
 一 天長節 十一月三日  
 一 新嘗祭 十一月二十三日

一 札幌神社祭 六月十五日

一 日曜日

第十九條 農藝傳習科ノ學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル該學年ヲ分チ前後二期トシ前期ハ四月一日ニ始マリ十一月三十日ニ終リ後期ハ十二月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十條 農藝傳習科ノ學年中前期ハ専ラ實業ヲ練習シ後期ハ専ラ學業ヲ修得ス

第二十一條 農藝傳習科ノ休業期日ハ左ノ如シ

一 自十二月二十八日至一月五日

一 紀元節

一 天長節

一 札幌神社祭

一 札幌招魂祭

一 日曜日

二月十一日

十一月三日

六月十五日

八月二日

第四章 入學及退學

第二十二條 各學科ノ學生生徒ハ學年ノ始ニ於テ入學ヲ許ス

第二十三條 凡入學試験ヲ受ケントスルモノハ入學願書ト共ニ受験料金五拾錢ヲ前納スヘシ

第二十四條 農學科及工學科ノ學生ハ豫科ヨリ入ルヲ正規トス然レモ其人員不足ナルトキハ別ニ召集スルコトアルヘシ

第二十五條 農學科及工學科第一年級ハ新ニ入學ヲ願フモノハ年齢滿十七年以上身體強健品行方

正ニシテ左ノ試験課目ニ合格スルヲ要ス

一 英語

一 地理學及地文學

一 歴史

一 博物學

一 理化學

一 英文和譯和文英譯

一 倫理

一 國語及漢文

一 書學

讀書 應對 文法 作文

日本歴史 東洋歴史 万國歴史 近世史

算術 代數 幾何 三角術

第二十六條 豫科第一年級ニ入學ヲ願フモノハ年齢滿十三年以上ニシテ高等小學全科卒業ノモノ

若クハ之ト同等以上ノ學力アルヲ要シ其他ノ學年級ニ入學ヲ願フモノハ相當ノ年齢ニ達シ其課

程ヲ修メ得ヘキ學力アルヲ要ス

第二十七條 農藝傳習科ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スルモノヨリ募集ス

一 本道ノ在籍者ニシテ耕地一町歩已上ヲ所有スル農家若クハ其子弟亦ハ本道ノ移住者ニシテ

一 開墾起業ノ目的確實ナルモノ

一 年齢十八年以上三十二年以下ノ者

一 身體強健品行方正ナル者

一 左ノ試験科目ニ合格ノモノ

一 讀書

漢字交リ文

一 算術

四則分數比例

一 書取

布令規則類

一 作文

通俗書狀

第二十八條 凡入學ヲ願フ者ハ左式ニ準シ願書及履歷書ヲ差出スヘシ

入學願書式

用紙美濃紙

私儀御校(農學科、工學科、理學科、農醫科)入學願書

入學仕度履歷書相添此段奉願候也

年月日

族籍住所

名印

何年何月生

札幌農學校長某殿

履歷書

用紙美濃紙

姓

名

一 何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校若クハ何職ニ就キ何學修業用書何々

一 何年何月何學校ニ於テ何科程卒業

一 賞狀進級證書卒業證書ノ寫

一 何年何月何所ニ於テ何業ニ従事何業修得云々

第二十九條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ左式ノ入學證書ヲ出スヘシ

入學證書式

用紙美濃紙

私儀今般札幌農學校(農學科、工學科、理學科、農醫科)入學證書

入學被差許候ニ付テハ在校中御規則堅ク相守可申候仍テ證書如件

年月日

族籍住所

名印

何年何月生

札幌農學校長某殿

右之者今般入校御許可相成候ニ付テハ同人在校中ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受可申候此段保證仕候也

年月日

族籍住所

名印

名印

前書保證人離儀丁年以上ニシテ當區(區長ノ奥印ヲ要セス)内ニ住シ一家計ヲ立ルモノニ相違無之候也

年月日

北海道何區長

姓

名印

第三十條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ北海道ニ住シ一家計ヲ立ルモノニ限ル

第三十一條 保證人ハ轉籍轉居又ハ改印ノ時ハ速ニ届出ヘシ

第三十二條 入學志願及第者召集ノ員數ヲ超過スルトキハ點數ノ高キニ從ヒ入學ヲ許シ同點ノモ

ノハ入學願ノ前後ニ依リ之ヲ定ム

第三十三條 入學志願者ノ試験ハ農學校長試験委員ヲ命シテ之ヲ行ハシム

第三十四條 學生生徒(科)ニシテ農藝傳習科ハ轉科志願ノモノアルトキハ該科學年ノ初メニ於テ別ニ學力試験ヲ要セス之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十五條 學生生徒ハ止ムヲ得サル事故アルニアラサレハ半途退學ヲ許サス

但病氣其他止ヲ得サル事故アリテ退學ヲ願出ルトキハ其事由ヲ詳記シ保證人連署願出ヘシ病氣ハ醫員ノ診斷書ヲ添フヘシ

第五章 賞罰

第三十六條 學生生徒一學年中學力優等品行方正ナルモノハ褒賞ヲ與フヘシ

第三十七條 褒賞ハ圖書器械賞狀ノ類トス

第三十八條 校則背犯者アルトキハ背犯者ノ情狀ヲ酌量シ左ノ懲罰ニ處スルコトアルヘシ

一 體責

一 謹慎

一 休學

第三十九條 左項ニ當リ在校セシムヘカヲサルモノト認ムルトキハ退學ヲ命ス

一 校則若クハ其他ノ命令規則ニ悖反シ訓誨ヲ用ユルモ悔悟ノ情ナキモノ

一 品行方正ナラサルモノ

一 學力不充分ナルモノ

一 病ニ罹リ修學スヘカヲサルモノ

一 實地勞動ニ堪ヘサルモノ

第六章 進級及卒業

第四十條 試験ヲ分チテ左ノ二種トナス

一 臨時試験

一 學期試験

第四十一條 臨時試験ハ現ニ履修中ノ學科ニ付キ受持教官ノ見込ヲ以テ之ヲ行フモノトス

第四十二條 學期試験ハ學期中履修セシ學科ニ付キ學期ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ學業ノ熟否ヲ査定スルモノトス

第四十三條 學年成績ハ學年中履修セシ學科ニ付キ學年ノ終リニ於テ之ヲ按シ及第及落第ヲ判定スルモノトス

但二學年引續キ落第シタルモノハ第三十九條ニ依リ處分ス

第四十四條 凡試験ハ教官ノ見込ニ依リ口述筆記又ハ實験ノ法ヲ以テ之ヲ行ヒ其成績ヲ按シテ評點ヲ付ス

但實業ニ關スルモノハ別ニ試験ヲ要セス教官ノ見込ニ依リ評點ヲ付スルコトアルヘシ

第四十五條 試験ノ評點數ハ二百ヲ以テ最高點トシ六十以上ヲ及第點ト定ム

第四十六條 各科學期評點ハ其學期中ノ臨時試験評點平均數若クハ日課評點平均數ト學期試験評點數トノ和ヲ二分シテ得ルモノトス

第四十七條 各科ノ學年評點ハ前後二學期ノ評點ノ和ヲ二分シテ之ヲ得ルモノトス

但學課コシテ二學期ニ跨ラサルモノハ一學期ノ評點數ヲ以テ學年評點トナス

但學課コシテ二學期ニ跨ラサルモノハ一學期ノ評點數ヲ以テ學年評點トナス

第四十八條 學期ノ諸科平均評點ハ各科學期ノ評點ニ其課程時間ヲ乘シタルモノヲ合シ課程時間ノ總數ヲ以テ除シ之ヲ得ルモノトス

第四十九條 學年ノ諸科平均評點ハ各科ノ學年評點ニ其課程時間ヲ乘シタルモノヲ合シ課程時間ノ總數ヲ以テ除シ之ヲ得ルモノトス

第五十條 諸科平均評點數六十以上ニ及フト雖モ各科學年ノ評點數六十未滿三科以上若クハ五十未滿二科以上ニ及フトキハ落第トス

第五十一條 諸科平均評點數六十以下ニシテ各科ノ評點數五十未滿二科以上若クハ四十未滿一科以上アルトキハ第三十九條ニ依リ處分ス

第五十二條 農藝傳習科ニ於テハ第五十條及第五十一條ヲ適用セス特ニ實業點數六分學課點數四分ノ比率ニ依リ學年評點ヲ定ム

第五十三條 凡試驗ニ欠席スルモノハ總テ零點ヲ付ス  
但病氣又ハ不得止事故ノ爲メ欠席シタルモノニシテ校長之ヲ適當ト認メタルトキハ特別試驗ヲ行フコトアルヘシ

第五十四條 農學科工學科及兵學科ニ於テ定規ノ課程ヲ卒リタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス  
(卒業證書式)

札幌農學校ニ於テ農工學科ヲ修メ定期ヲ經テ考試ヲ完フシ正ニ其業ヲ卒ヘリ仍テ之ヲ證ス

主任 教官

札幌農學校教授位勳

姓 名 印

教官ノ證明正當ナルヲ以テ札幌農學校印ヲ鈐シ之ヲ證ス

年 札幌農學校印 日 札幌農學校校長位勳 姓 名 印

第五十五條 豫科及農藝傳習科ノ課程ヲ卒ヘタル者ニハ左式ノ卒業證書ヲ授與ス  
(卒業證書式)

農藝傳習科 卒業 候 事 姓 名

年 札幌農學校印 日 札幌農學校校長位勳 姓 名 印

第七章 校費生

第五十六條 學生中學業優等ナルモノヲ撰ヒ校費生トナス

第五十七條 校費生ハ校業料ヲ免シ給與ノ金額ハ一ケ年凡金八拾四圓ヲ以テ目的トシ入舎中衣服紙紙等現品ヲ以テ給シ或ハ本校ノ便宜ニ從ヒ其代金ヲ以テ給スルコトアルヘシ

第五十八條 校費生ノ給與ハ在舎中ニ限ルモノトス然レトモ學術研究ノ爲メ許可ヲ得テ旅行スルトキハ相當ノ費用ヲ給スルコトアルヘシ

第五十九條 校費生半途退校ヲ願出又ハ第三十九條ノ場合ニ於テ退校ヲ命セラレタルモノハ給與ノ金額即時ニ返納セシム

但疾病ノ爲メ退校ヲ命セラレタルモノハ事情ニヨリ給與金ノ返納ヲ免除スルコトアルヘシ  
 第六十條 校費生兵學科卒業者卒業後北海道廳ノ採用ヲ受ルトキハ滿四ケ年間奉職スヘキ義務アルモノトス  
 第六十一條 校費生兵學科卒業者卒業後滿八ケ年間其身分進退ニ就テハ札幌農學校長ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ  
 第六十二條 校費生ハ左式ノ契約書ヲ出スヘシ  
 (校費生契約書式) 用紙美濃紙

①  
 登 錢  
 印 紙

契約書

私儀農學科 兵學科校費生被命候ニ就テハ在學中御校則堅ク相守可申兵學科以下括弧(且北海道へ永住ノ上卒業後ハ御校則第六十條第六十一條ニ依リ進退可仕)萬一御規則ニ背キ半途退校被命候歟又ハ不得止事故アリテ退校相願候節ハ在學中ノ御給與金即時返納可仕保證人連署此段契約仕候也

年 月 日  
 本人 姓 名 印  
 族 籍 住 所  
 保證人 姓 名 印

札幌農學校長某殿

第六十三條 校費生ハ五十八ヲ以テ定員トス

第八章 學資金及授業料

第六十四條 農學科及工學科學生ニシテ入舍ヲ乞フモノハ衣食其他雜費トシテ一ケ年金八拾四圓ヲ納メシム

第六十五條 豫科學生徒ハ入舍ヲ許サス

第六十六條 豫科學生徒ノ學資ハ總テ自辦トス

第六十七條 農學科及工學科學生ハ授業料トシテ一學年金拾圓豫科學生徒ハ一學年金六圓ヲ納ムヘシ  
 農藝傳習科員外生徒ハ授業料ヲ免ス

第九章 農藝傳習科生徒

第六十八條 農藝傳習科生徒ハ五十名ヲ以テ定員トナス

第六十九條 農藝傳習科生徒ハ總テ給費トナシ在學中寄宿舎ヲ貸與シ學資トシテ一ケ月金三圓五拾錢ヲ給與ス

但自費入學ヲ志願シ又ハ一時ノ參場ヲ出願スルモノアルトキハ事業ノ都合ニ據リ員外トシテ許可スルコトアルヘシ

第七十條 農藝傳習科生徒卒業後滿五ケ年間其身分進退ニ就テハ農學校長ヲ經由シテ北海道廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第七十一條 農藝傳習科生徒半途退學ヲ願出又ハ第三十九條ノ場合ニ於テハ其給與金ノ返納ハ第五十九條及但書ニ依ル

第七十二條 農藝傳習科生徒ハ左式ノ契約書ヲ出スヘシ



(傳習科生徒契約書式)

用紙美濃紙

壹 錢  
印 紙

契約書

私儀今般農藝傳習科生徒被命候ニ付テハ在學中御校則堅ク相守可申ハ勿論卒業後ハ御校則第七十條ニ依リ進退可仕萬一御規則ニ背キ半途退校被命候歟又ハ不得止事故アリテ退校相願候節ハ在學中ノ御給與金即時返納可仕保證人連累此段契約仕候也

年 月 日

族 籍 住 所

本 人 姓 名

族 籍 住 所

保 證 人 姓 名

姓 名

姓 名

姓 名

前番保證人誰儀丁年以上ニシテ當町區内ニ住シ一家計ヲ立ルモノニ相違無之候也

年 月 日

第十章 研究生

第七十三條 卒業生中學力優等才能拔群ナルモノヲ撰ヒ更ニ學資ヲ給シテ研究生トナスコトアル

第七十四條 研究期限ハ一ツ年以上三ツ年以下トス

第七十五條 研究生ハ農學校長ノ命ニヨリ學術ニ關スル諸項ヲ調査シ或ハ時宜ニ依リ事業ヲ助クヘキ義務アルモノトス

第七十六條 研究生研究滿期後ノ進退ハ第六十條第六十一條ニ依ル

第七十七條 研究生ハ左式ノ契約書ヲ出スヘシ

(研究生契約書式) 用紙美濃紙

壹 錢  
印 紙

契約書

私儀學資御給與ノ上何科研究被命候ニ付テハ御規則總テ遵守可致此段契約仕候也

年 月 日

族 籍 住 所

本 人 姓 名

族 籍 住 所

保 證 人 姓 名

名 印

札幌農學校長某殿

第十一章 教官會議

第七十八條 教官會議ハ學務上諮詢ノ爲メニ之ヲ開クモノトス

第七十九條 教官會議ハ教授助教及訓導ヲ以テ議員トナシ校長其議長トナルモノトス

但校長ノ意見ニヨリ此他ノ職員ヲ列席セシムルコトアルヘシ

第八十條 教官會議書記ハ校長教官ノ中ヨリ之ヲ命スルモノトス  
 第八十一條 教官會議ハ必要アル毎ニ校長之ヲ開クモノトス  
 第八十二條 會議ハ總會小會ノ二種トナス總會ニ於テハ總職員ヲ召集シ農學科工學科兵學科及豫科農藝傳習科ノ全休ニ關スル事項ヲ議定シ小會ニ於テハ關係アル學科ノ職員ヲノミ召集シテ議事ヲ開クモノトス

◎札幌農學校學費取扱細則

○明治二十二年十月二十六日北海道廳訓令號外札幌農學校宛  
 其校學費取扱細則左ノ通相定メ明治二十二年九月ヨリ施行ス

札幌農學校學費取扱細則

第一款 私費生

第一條 校則第六十四條ノ學費ハ左ノ各項ニ據ルヘシ  
 一 入舍ノ常月ニ限リ衣服其他ノ雜費ニ充テ月額三ヶ月分前納セシムヘシ  
 二 入舍翌月ヨリ毎月十日限リ月額金七圓ヲ徵收スヘシ  
 三 二學年央ニ入舍スルモノハ之ニ相當スル費用ヲ徵收スヘシ  
 第二條 公私用ニテ旅行又ハ外宿スルモノハ本校ヲ出テタル翌日ヨリ歸校前日迄日割ヲ以テ食料ヲ徵收セス但疾病等ノ爲メ數月間課業ヲ欠クモノハ衣服其他ノ雜費ヲ徵收セサルコトアルヘシ  
 第二款 校費生  
 第三條 校則第五十七條ノ末項ニ依リ代金支給スルモノハ筆紙其他ノ雜費ニ限リ其月十五日前後ヲ以テ區分シ全額又ハ半額ヲ給スヘシ

第四條 公私用ニテ旅行又ハ外宿スルトキハ本校ヲ出テタル翌日ヨリ歸校前日迄日割ヲ以テ食料ヲ支給セス但疾病等ノ爲メ數月間課業ヲ欠クモノハ衣服其他ノ雜費ヲ支給セサルコトアルヘシ  
 第五條 校則第五十八條ニ依リ旅行スルモノハ在舍中ニ要スル食料及筆紙其他ノ雜費ニ相當スル金額ヲ支給スヘシ  
 第六條 病氣ノ爲メ要スル藥餌ハ在舍中ニ限リ現品ヲ支給ス但シ病氣ノ性質ニ依リ入院セシムルモノハ特ニ入院料ヲ支給スルコトアルヘシ

第三款 農藝傳習科生

第七條 校則第六十九條ノ學費支給法ハ本則第三條ヨリ第五條迄ニ準據スヘシ  
 第八條 病氣ノ爲メ藥餌ヲ要シ又ハ入院セシムルトキハ第六條ニ準據スヘシ

第四款 研究生

第九條 校則第七十三條學費支給法ハ明治十九年十月丙第十五號當廳達備員俸給規則ニ準據スヘシ

◎札幌農學校卒業生學士號

○明治二十二年十月三十一日北海道廳令第六十一號  
 札幌農學校ニ於テ農學科及工學科ヲ卒業シタルモノハ其學科ニ從ヒ農學士又ハ工學士ト稱スルコトヲ得

◎商業學校函館區ニ設置

○明治十九年九月十七日北海道廳庚第十四號告示及無號達函館支廳宛  
 商業學校ヲ管下波島國函館區元町ニ設置シ函館商業學校ト稱ス

但開校期日ハ退テ告示ス

◎函館商業學校職制

○明治二十年四月十三日北海道廳令第三十一號

函館商船學校及函館商業學校職制左ノ通定ス函館商船學校ハ二十一年選任省ニ屬ス

函館商船學校及函館商業學校職制

第一條 學校長ハ北海道廳長官ノ命ヲ承ケ校務ヲ整理シ教諭以下ノ職員ヲ統督シ教室ノ秩序ヲ保持スルヲ掌ル但學校長ヲ缺クトキハ首席教諭ヲシテ學校長ノ職務ヲ代理セシム

第二條 教諭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教授ノ事ヲ掌ル

第三條 助教諭ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ教諭ノ職掌ヲ助ク

第四條 書記ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第五條 教諭助教諭ノ員數ハ學校ノ輕重及生徒ノ員數ニ應ジテ之ヲ定ム

◎函館商業學校規則

○明治二十三年五月二十一日北海道廳令第二十八號

函館商業學校規則左ノ通改定ス

函館商業學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ内外商業ニ關スル必須ノ學科ヲ教授シ以テ商業躬行者ヲ養成スル所トス

第二條 教科ヲ分テ豫科本科トシ豫科ニ於テハ專ラ本科ニ入ルニ必要ノ學科ヲ教ヘ本科ニ於テハ商業專門ノ學科ヲ授ク

第三條 修學年限ハ豫科一年之ヲ一學級トシ本科三年之ヲ三學級ニ分ツ

第四條 生徒定員ハ豫科本科ヲ合セテ大約百五十名トス

第五條 本校卒業生徒ニシテ既ニ所修ノ學科ヲ猶深ク研究セント欲スル者アルトキハ願ニ依リ更ニ一ケ年以内研究生トナスコトアルヘシ

第六條 本校別ニ速成科ヲ置キ本科ヲ履修スルコト能ハサル者ノ爲ニ商家日用近易ノ學科ヲ教授ス其修學年限ヲ一年トス

第二章 學年、授業時間休日

第七條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 授業時間ハ一週三十三時間トス

第九條 年中休業日左ノ如シ

一日曜日

一大祭祝日

一札幌神社祭日

一冬季休業 自十二月二十六日 至一月十日

一夏季休業 自八月十日 至九月十日

一學級試業後一週間以内

第三章 學科課程

第十條 豫科本科ノ學科及課程ハ左表ノ如シ

第十一條 速成科ノ學科及課程ハ左表ノ如シ

科目	年限	時間	第一	第二	第三
修身	一	一	全上	全上	全上
國語	二	一	漢文	全上	全上
習字	二	一	楷行	全上	全上
算術	二	一	珠算	全上	全上
簿記	二	一	往復文	全上	全上
商業地理	二	一	銀行簿記	全上	全上
商業史	二	一	會計簿記	全上	全上
經濟	二	一	社會雜題	全上	全上
圖畫	二	一	全上	全上	全上
理科	二	一	物理	全上	全上
英語	二	一	讀方	全上	全上
實験	二	一	讀方	全上	全上
體操	二	一	兵式體操	全上	全上
通計	二	一	全上	全上	全上

第十七類 專門學校

六五三

豫科學科課程表

科目	年限	時間	第一
修身	一	一	口授習字
國語	二	一	漢字交リ文
算術	二	一	楷行
簿記	二	一	往復文
商業地理	二	一	珠算
商業史	二	一	速算
經濟	二	一	筆算
圖畫	二	一	暗算
理科	二	一	內外國大意
英語	二	一	自在書
實験	二	一	用器書
體操	二	一	大意
通計	二	一	內國大意

本科學科課程表

六五二

科目	年限	每週時間	一
修身	一	一	口授 習行
讀本	四	四	漢字交り文
習字	三	三	楷行
作文	四	四	往復文
算術	一	一	珠算 速算 筆算 暗算
地誌	四	四	内外國大意
英語	三	三	習字 讀方 譯解 書取
簿記	三	三	諸證書式記入
商業	二	二	定義 單複式記入 簡易雜題
商業	四	四	近易必用ノ諸規則條例
簿記	三	三	普通体操
通	三	三	一一

六五四

第十二條 各課ノ科外ニ講談ノ一課ヲ置キ適宜ノ時日ニ於テ之ヲ行フ

第四章 入學、退學

第十三條 入學ノ期ハ毎年一回學年ノ始トス

但時宜ニヨリ臨時入學ヲ許スルコトアルヘシ

第十四條 豫科ニ入學ヲ許ス者ハ左記各項ニ合格ノ者ニ限ル

一	年齡十四歲以上ノモノ
二	品行善良ナルモノ
三	身壯健ナルモノ
四	高等小學第三年級修業以上ノモノ若クハ同程度ニ準シ左ノ試業課目ニ依リ試験ヲ施シ合格點ヲ得タルモノ
試業 課目	
一	修身 嘉言善行
一	讀本 漢字交り文
一	習字 楷行草 三跡
一	作文 日用往復文
一	算術 珠算四則 筆算諸比例利息算迄
一	圖書 自在齋
一	地理 内外國大意
一	歷史 內國大意
一	理科 物理大意
一	英語 讀方、譯解、習字、書取
第十五條	本科一年ニ入學ヲ許スモノハ左記各項ニ合格ノ者ニ限ル
一	年齡十五歲以上ノモノ
二	品行善良ノモノ

第十七條 專門學校

六五四

三 身體壯健ナルモノ

四 本校豫科卒業ノ者若クハ高等小學全科卒業證書ヲ有スルモノ

第十六條 速成科ニ入學ヲ許ス者モ亦大概第十四條ノ試験ヲ施シ其學力ヲ檢定スヘシ

第十七條 入學ヲ願フ者ハ左式ノ入學願書並ニ學業履歷書ヲ差出スヘシ

入學願(用紙美濃紙ニツ折一通)

私儀御校へ入學志願ニ付御試験ノ上御許  
可被成下度依テ別紙履歷書相添此段相願  
候也

族籍職業

(某子弟)

年月日

姓名 印

何年何月何日生

宿所何區郡町村番地

函館商業學校長姓名殿

履歷書

學業

一年月日何地(官公私)立何學校ニ入り何  
學科何年修業或ハ全學科卒業或ハ何某ニ  
從學何年間授業用書何々(卒業證書ヲ有  
スルモノハ其寫ヲ添フヘシ)

賞罰

一年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受クル等  
以上

年月日

姓名 印

第十八條 入學ノ許可ヲ得タルモノハ五日以内ニ左式ノ證書ヲ保證人同道ニテ持參スヘシ

證券  
印紙

入學證書

(用紙美濃紙ニツ折一通)

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ始終御規則ヲ遵守シ特ニ在學中ハ專心ニ  
勉勵シ卒業ニ至ル迄根ニ退學等致間敷候仍テ誓書如此候也

族籍職業

(某子弟)

年月日

姓名 印

何年何月何日生

宿所何區郡町村番地

前文某今回入學御許可相成候ニ付テハ在學中御規則堅ク可爲相守ハ勿論本人ニ係ル  
一切ノ事件ハ拙者引受可申仍テ保證如此候也

但向後轉居改印等致候節ハ速ニ届出ヘク候也

族籍職業

姓名 印

宿所何區郡町村番地

函館商業學校長姓名殿

前書保證人某儀丁年以上ニシテ當部内ニ於テ一家ヲ立ル者ニ相違無之候也

函館區長 姓

名 印

第十九條 第十八條ノ保證人ハ丁年以上ニシテ函館區内ニ於テ一家ヲ立テ生徒ノ身上ニ關シ一切引受クルニ足ルヘキ者ニ限ル

但保證人死亡若クハ區外ヘ轉住スルトキハ更ニ保證人ヲ定メ第十八條ノ書式ニ準シ證書ヲ差出スヘシ

第二十條 生徒規則ニ悖戻シ若クハ怠惰不品行等ノ故ヲ以テ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ直ニ退學ヲ命スヘシ

第二十一條 生徒無届ニテ缺課スルコト引續キ三週日ニ及フ時ハ直ニ除名スヘシ

第二十二條 生徒疾病等ノ故ヲ以テ數々遅刻缺課スル者又ハ引續キ六十日以上缺課スルトキハ除名スルコトアルヘシ

第二十三條 生徒不得止事故アリテ退學セント欲スル者ハ其事由ヲ書面ニ詳記シ保證人連印ノ上願出許可ヲ受クヘシ

第二十四條 願ニ依リ一旦退學セシ者再ヒ入學ヲ願出ルトキハ入學ノ期ニ於テ更ニ試業ヲ施シ相當ノ級ニ編入スヘシ

但第二十二條ニ依リ除名セシ者モ亦本條ニ準ス

第二十五條 學級試業ニ落スルコト引續キ三度ニ及フトキハ退學セシムルコトアルヘシ

第五章 試業、證書

第二十六條 試業ヲ分チテ左ノ三種トス

一 臨時試業

一 學級試業

一 大試業

第二十七條 臨時試業ハ擔當教員ノ見込ヲ以テ概テ隔月ニ所修ノ學科ヲ試験シ學業ノ進否ヲ判スルモノトス

第二十八條 學級試業ハ毎學年ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ其學年間ニ履修セシ諸科ヲ試験シ及落ヲ定ムルモノトス

第二十九條 大試業ハ本科生最後ノ學級試業ニ於テ及第點ヲ得タル者ニ限り更ニ全科ヲ通シテ學業ノ成績ヲ檢定スルモノトス

第三十條 都テ試業ノ評點ハ各科百點ヲ以テ最高點トシ其學科ニ依リ筆記、口述若クハ實地ノ三法ヲ適宜使用シ其成績ヲ檢案シテ之ヲ施スモノトス

但試業ニ缺席スル者ハ零點トス

第三十一條 臨時試業ニ於テ學業ノ進否ヲ判スルノ法ハ各科目ノ臨時試業評點數ニ日課評點平均數ヲ加ヘ二除シテ之ヲ定ムルモノトス

但日課評點ハ各科百點ヲ以テ最高點トス

第三十二條 學級試業ニ於テ及落ヲ判スルノ法ハ各科目ノ學級試業評點數ニ臨時試業評點平均數ヲ加ヘテ二除シテ之ヲ定ムルモノトス

但臨時試業評點ニ配當セサル日課評點アルトキハ其平均數ヲ以テ各科目臨時試業評點ト見做シ計算ス

一學科評點數	科學評級點數	平均各學數	及落
三十點以上	六十點以上	六十點以上	及第
三十點未滿	六十點未滿	六十點未滿	落第
三十點未滿	六十點未滿	六十點未滿	及第
三十點未滿	六十點未滿	六十點未滿	落第
三十點未滿	六十點未滿	六十點未滿	及第
三十點未滿	六十點未滿	六十點未滿	落第

第三十三條 大試業ニ於テ優劣ヲ判スルノ法ハ各科目評點四十點以上ニシテ諸科目評點平均數七十點以上ヲ合格點トス

第三十四條 學級試業ニ及第シタル者ニハ左式ノ修業證書ヲ與フヘシ

番號

修業證書

族籍 姓名 生年月日

本校制定ノ(本科第何年級科)修業候事

年月日

函館商業學校

校印

第三十五條 本科最終ノ學級試業ニ及第セシモノニシテ更ニ大試業ニ於テ合格點ヲ得タル者ニハ左式ノ優等卒業證書ヲ與フヘシ

但本科最終ノ學級試業ニ合格點ヲ得タルモノニシテ大試業ヲ受ケタルモノ及ヒ之ニ合格セサルモノニハ左式ノ尋常卒業證書ヲ與フヘシ

番號

優等卒業證書

族籍 姓名 生年月日

本校制定ノ本科ヲ履修シ更ニ大試業ニ合格ス因テ此優等卒業證書ヲ授與スル者也

年月日

函館商業學校長 姓名印

函館商業學校教諭 姓名印

番號

尋常卒業證書

族籍 姓名 生年月日

本校制定ノ全科ヲ履了ス因テ此尋常卒業證書ヲ授與スルモノ也

年月日

函館商業學校長 姓名印

第三十六條 生徒平素ノ操行ハ學校職員之ヲ査定シ毎年末ニ最上ノ者ヲ百點トシ遞次差等ヲ附シ其得點ヲ最終ノ學年末ニ通計シ之ヲ査定ノ度數ヲ以テ通約シ九十以上ヲ得ル者ヲ優等トシ以下六十點迄ヲ尋常トシ卒業ノ際左式ノ證書ヲ與フヘシ



番號	商業學校卒業生
校印	姓名
在學中ノ操行ヲ査定シ(優等) (尋常) (普通) 證書ヲ授與ス	生年月日
年月日	
函館商業學校長 姓名印	

第六章 授業料

第三十七條 授業料ハ一月本科五十錢豫科速成科金四十錢トス  
 第三十八條 授業料ハ毎月三日迄ニ納ムヘシ新ニ入學シタル者モ亦入學許可ノ日ヨリ三日以内ニ納ムヘシ

第三十九條 一旦納付ノ授業料ハ何等ノ場合ト雖トモ之ヲ返付セサルモノトス

第七章 寄宿舎

第四十條 生徒就學ニ便セシメ本校ニ寄宿舎ヲ置ク  
 第四十一條 寄宿ハ志願ノ者ニ限り許可スルモノトス

第八章 罰則

第四十二條 生徒規則ニ違背スルモノハ之ヲ罰スヘシ

第四十三條 罰科ハ呵責、拘止、退校ノ三トシ犯則者ハ各其情狀ニ照シ處分スヘシ

第四十四條 凡ソ處犯極メテ輕キモノハ呵責ニ止ム

第四十五條 拘止ハ二時間ヨリ少カラス六時間ヨリ多カラサル間毎日授業時間後一時間ツ、學校ニ拘止スルモノトス

第四十六條 校舎ノ建物若クハ器具等ヲ汚損シ失スルモノアルトキハ之ヲ賠償セシムルノ外亦情狀ニヨリ罰科スルヲアルヘシ

第四十七條 凡ソ罰科ニ處セラレシモノハ其輕重ニ依リ操行點ヲ減シ之ヲ揭示スルモノトス

◎函館病院附屬醫學講習所規則

○明治十八年十一月二十八日函館縣告示第六十七號告示

函館病院附屬醫學講習所規則別紙之通相定候條此旨告示候事

函館病院附屬醫學講習所規則

第一章 通則

第一條 本所ハ尋常ノ醫學科ヲ教授シ以テ縣内醫師ノ欠乏ヲ補フカメ設置スル所トス

第二條 生徒ハ悉ク自費通學ニシテ其人員三十名ヲ限ル

第三條 教授ハ總テ國語ヲ用非生徒實験ノ用ニ充ルニ函館病院ヲ以テス

第四條 生徒ハ年滿十六年以上ニシテ品行端正體質強健該年九月以降一ケ年内ニ徵兵現役ノ徵集ニ關係ナク且修業中家事ニ係累ナキモノニシテ左ニ掲記セル試業科目ニ從ヒ其學力ヲ試驗

(初等中學以上ノ卒業證書ヲ所持スルモノハ更ニ試驗ヲ要セス)シ合格ノ者ニ限ル  
 但官立公立學校ニ於テ不都合ノ行爲アリ退學ヲ命セザル爾後文部卿ヨリ官立公立私立學校ヘ

入學ヲ禁セラレタル者ハ入學ヲ許サス尤入學禁止ノ處分ヲ受タル者ト雖モ謹慎悔悟ノ實踐アリ特ニ解禁セラレタル者ハ此限リニアラス

入學試業科目

講讀 日本外史 十八史略ノ内  
作文 公私用書牘 記事文ノ内  
算術 加減乗除ヨリ級數求積マテノ内  
物理學大意

化學大意

第五條 入學ヲ願フ者ハ書式ニヨリ保證人ヨリ履歷書ヲ添願書差出スヘシ

第六條 生徒ハ半途退學ヲ許サス

第七條 生徒行狀不正或ハ規則ヲ犯シ或ハ學業遲滯或ハ難治ノ症ニ罹リ成業ノ目的ナキモノ等ハ退學ヲ命ス

第八條 年中休業日左ニ掲ク

- 日曜日
- 孝明天皇祭 一月三十日
- 紀元節 二月十一日
- 春季皇靈祭 春分日
- 神武天皇祭 四月三日
- 札幌神社祭 六月十五日

函館八幡宮祭 八月十五日

秋季皇靈祭 秋分日

神嘗祭 十月十七日

天長節 十一月三日

新嘗祭 十一月廿三日

暑中 自八月一日起至八月三十日

歳末歲始 自十二月廿六日起至一月十日

定期試験後 三日

入學願書式 用紙美濃紙

何縣何國何郡何村何番地

華士族平民何誰子弟(戸主ナレバ)

何 年 齡

右之者儀醫學科修業志願ニ付從來ノ行狀及身上係累ノ有無其取亂候處不都合ノ廉無之且御規則確爲相守可申候間御試験ノ上入學御許可被成下度別紙履歷書和添此段奉願候也

何縣何國何郡何村何番地

華士族平民

保證人 何 某印

所長 宛

履歷書

六六六

何府何國何郡何町何番地  
華士族平民何誰子弟(戸主ナレハ)  
之ヲ除クハ)

何 某 年 齡

- 一 何年何月何府縣何學校ニ於テ小學中等科第何級或ハ何等卒業
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何誰ニ就キ何學修業
- 一 何年何月ヨリ何年何月マテ何醫學校或ハ何病院ニテ何學修業
- 一 何年何月何日何府縣ニ於テ何拜命月俸金何圓
- 一 凡テ賞罰ニ關スル事件ハ詳細ニ記載スヘシ

前書之通相違無之候也

何府何國何郡何町  
戶長 何

某印

第二章 教則

第一條 本條ニ於テ教授スヘキ學科ハ物理學化學解剖學生理學外科學內科學藥物學眼科學產科學  
臨床實驗ノ十科トス

第二條 修業年限ヲ三年トス又一年ヲ前後ノ二期ニ分チ前期ハ九月一日ニ始リ翌年二月十五日ニ

終リ後期ハ二月十九日ニ始リ七月三十一日ニ終ル

第三條 授業時間ハ一年凡四十二週壹週二十四時トス

第四條 諸科教授要旨左ノ如シ

物理學

物理學ノ教授ハ總論物性ヨリ三昧動靜ノ要領波動ノ論理音光熱磁石電氣及氣象學ノ大要ヲ授ケ而シテ醫學上ニ必要ナル科目ハ特ニ精密ヲ加ヘ一々器械ヲ用ヒテ實象ヲ示スヘシ

化學

化學ハ總論ニ於テハ物質離合ノ定則ヲ説キ各論ニ於テハ有機無機ノ中ニ於ケル物質變化ノ理ヲ明ニシ且化合分析ノ技術藥物ノ界限鑑識等總テ之ヲ論理ト試驗トニ徴シ就中醫學ニ緊要ナル諸方ハ務メテ之ヲ精密ニ授クヘシ

解剖學

解剖學ハ醫學ノ基礎タルヲ以テ講義ヲ理解シ能ク之ヲ記憶セシメ製造品模造品圖譜等ヲ用非懇切ニ說明シ即身軀諸部臟腑ノ位置形狀聯接造構等ヲ明ニシ執刀法ヲ授ケテ時々諸動物死骸解剖ノ實地演習ヲナサシムヘシ

生理學

生理學ノ教授ハ内外諸科ニ先チ之レヲ授ケ總論血液運行呼吸分泌消化吸收新陳代謝体温運動神經機能五管器胎生等ヲ講明シ且其理ヲ解シ見ラシメシメ圖畫器械製造品顯微鏡等ヲ用非テ教授スヘシ

外科學

第十七類 專門學校

六六七



講習所教科用圖書

物理學	卷一冊	出版年月	著者氏名	出版者氏名
物理學	上中三冊	明治十四年五月	飯盛挺造譯	東京本郷區本郷五丁目七十一番地寄附 飯盛挺造
化學	部			
無機化學	後前二冊	明治十三年十一月	丹羽敬三纂譯	東京本郷區本郷三丁目二十番地寄附 丹羽敬三
有機化學	後前二冊	明治十四年五月	丹羽敬三下山順一 柴田承桂 纂譯	東京區馬場町三丁目五番地 島村利助
解剖	部			
解剖攬要	前十四冊	明治十五年五月	田口和美編輯	東京本郷區本郷春木町三丁目二十八番地 田口和美
生理學	部			
生理學	上下二冊	明治十四年四月	永松東海譯述	東京神田區神保町九番地 永松東海
內科	部			
病理總論	全六冊	明治十六年	三宅秀著	東京本郷區相生町五丁目三十番地 三宅秀

內科	病論	全三冊	明治十五年	ヘルツ氏著 伊瀬鏡五郎譯	刀圭書院
外科	部				
內科	道論	全八冊		佐藤進講述	東京本郷區湯島五丁目十二番地 佐藤進
外科	各論	全十二冊		足立寛著	東京本郷區眞砂町十二番地 足立寛
藥物	部				
新纂藥物學	全七冊	明治十年十一月	櫻村清徳纂輯	東京府神田區小川町十九番地 櫻村清徳	
眼科	部				
眼科	學	全四冊	明治十五年	柳俣	東京本郷區号町二丁目十一番地 柳俣
産科	部				
産科	學	全一冊		長谷川泰	東京本郷區元町一丁目一番地 長谷川泰

第三章 試驗規則

第一條 試驗ヲ分テテ小試驗定期試驗ノ二トス  
 第二條 小試験ハ一學期內三回以上五回以下教員ノ見込ヲ以テ既ニ修學セシ所ノ科業ニ就キ其熟否ヲ試ミ其席ヲ定ムルモノトス

第三條 定期試験ハ各學期ノ終ニ該學期ニ修學セシ所ノ科業ヲ試ミ其學級ヲ定メ學科及第ノモノニハ左ニ列記セル各科ノ卒業證書ヲ授クルモノトス  
 物理學 化學 解剖學 生理學 內科學  
 外科學 藥物學 眼科學 產科學 內外科實驗  
 第四條 試験ハ小試験ニ於テハ各科三問以上五問以下ノ問題定期試験ニ於テハ五問以上七問以下ノ問題ヲ與ヘ解答筆記セシム  
 但事宜ニ依リ口答セシムルコトアルヘシ  
 第五條 試験ノ點數ハ毎科三十點ト定メ其二分ノ一以上ヲ得ルモノヲ以テ合格トス  
 但定期試験ニ於テハ一科ヲ限り不合格ノモノハ再試験スルコトアルヘシ  
 第六條 小試験ノ當日病氣等ニテ欠席ノモノハ其試験當日ヨリ一週間以內ニ出席スルトキハ試験ヲ行フヘシ  
 第七條 定期試験ノ當日欠席ノ者ハ其出席ノ日ヨリ二週間以內ニ試験ヲ行フモノトス  
 但三ヶ月以上欠席ノモノハ定期試験ヲ行ハサルモノトス  
 第八條 總テ試験ノ時間ハ其科目ノ難易ヲ量リ豫メ之ヲ定メ告知スヘシ  
 第九條 定期試験ノ日割ハ二週間以前之ヲ揭示シ當日衆庶ノ參觀ヲ許ス

姓	名
年	齡
族	籍

學科及第證書

何々學講習候事

年月日	試験委員
姓	名
所	長
姓	名

第四章 教場規則

第一條 生徒ノ席順ハ小試験ノ成績ニ依リ毎月之ヲ進退ス  
 第二條 就課及放課時限ハ點鐘ヲ以テ之ヲ報スヘシ  
 第三條 百事教員ノ指揮ニ從ヒ損ニ出入スヘカラス  
 第四條 裝置ノ器具ヲ使用シ書籍ヲ散亂スヘカラス  
 第五條 喫烟ハ勿論耳語談笑等スヘカラス  
 第六條 教場ニテ襟卷等用ニヘカラス  
 第七條 教場必用ノ器ヲ遺忘スヘカラス  
 第八條 講義中質問スヘカラス  
 但講義了ル後質問スルハ此限ニアラス

第五章 書籍規則

第一條 醫生徒課業ノ書籍ハ悉皆自辨ト雖モ若不得止事故アリテ借用セントスルモノハ之ヲ書記ニ申出ヘシ

第二條 貸與ノ書籍ハ他人ニ轉貸スルヲ許サス

第三條 貸與ノ書籍ヲ失ヒ又ハ毀損スルモノハ相當ノ價ヲ償ハシム

第四條 貸與ノ書籍ハ夏冬休業中他行又ハ歸省スルキハ一先之ヲ返納スヘシ

第六章 生徒心得

第一條 生徒ハ行狀言語ヲ慎ミ信義禮節ヲ重シ苟モ粗暴ノ舉動アルヘカラス

第二條 衣服ハ務メテ清潔ヲ旨トシ就課中ハ必ス着袴スヘシ

第三條 生徒ハ遲クモ起業十分前出席スヘシ

第四條 病氣其他不得止事故等ニテ欠席スルトキハ其旨届出ヘシ若十五日以上ニ及フキハ醫師診斷書ヲ添ヘ届出ヘシ

第五條 傳染病ニ罹リタルトキハ平癒後二週間ヲ經過スルニアラサレハ出席ヲ許サス

◎函館病院附屬醫學講習所職員職務心得

○明治十八年十二月十九日函館縣乙第二十七號達(郡區役所宛)

函館病院附屬醫學講習所職員職務心得左ノ通相定候條爲心得此旨相達候事

函館病院附屬醫學講習所職員職務心得

所長(函館病院長ヲ以テ之ニ充)

一 縣令ノ命ヲ奉シ本所ノ事務ヲ總理シ其職員ヲ監督ス

二 教員以下各職員ノ進退黜陟ヲ具狀スルヲ得

教員(函館病院醫員司藥ノ内ヲ以テ之ニ充)

一 生徒ノ教授ニ從事ス

書記(函館病院書記ノ内ヲ以テ之ニ充)

一 各庶務ニ從事ス

各種學校

〔沿革〕沿革布令目錄ニ詳ニス

◎各種學校教員假免許狀規程

○明治二十一年二月十八日北海道廳令第八號

小學校ヲ除クノ外各種學校教員假免許狀規程左ノ通定ム

但從來ノ各種學校教員ハ此際檢定ヲ受クヘシ

各種學校教員假免許狀規程

第一條 各種學校教員假免許狀ハ丁年以上ニシテ其學力檢定試驗ニ及第シタルモノニ之ヲ授與ス

但從來ノ履歷ニ據リ學力相當ト認ムルモノニハ試驗ヲ須ヒス免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第二條 學力檢定試驗ハ其校教員ノ學科程度ヲ教授スルニ足ル學力ノ有無ヲ檢定ス

第三條 檢定試驗ノ評點ハ一學科一百ヲ以テ定點トシ五十以上ヲ及第トシ以下ヲ落第トス

第四條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀授與セス又既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收スヘシ

一 新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラシテ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑

ニ處セラシテ若クハ監視ニ付セラレタル者

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

- 一 賭博處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタル者
- 一 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
- 一 荒鹵暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アル者
- 一 舊法ニヨリ懲役若クハ禁獄若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタル者
- 一 但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス
- 一 前項ノ刑ニ處セラレテ存留養親老少癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタル者

第五條 前條ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノト雖モ其事情ニヨリ特ニ免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 學力檢定試驗願書ハ左式ニ據リ履歷書ヲ添へ學校設置伺出ノ際若クハ教員交替上申ノ際同時ニ差出スヘシ

學力檢定試驗願書  
私儀何學校何科(何々)教員志願ニ付學力御試驗相受度履歷書添此段奉願候也

年月日 住 姓 所 年 名 齡

第七條 各種學校教員假免許狀書式左ノ如シ

長官宛

番 號	假 免 許 狀	族 籍	姓 名
			年 齡
			何學校何科(若クハ何々科)教員タルヲ免許ス
年 月 日		北 海 道 廳	

第八條 此規程ニ依リ授與シタル假免許狀ハ追テ本免許狀規則發付マテ有効ノモノトス

◎町村立學校職員休業中旅行ヲ許ス

◎明治二十一年八月十一日北海道廳訓令號外郡區役所宛  
町村立學校休業中該校職員校務差支ナキ向ハ其行先及日數届出サセ旅行セシメ若シカラス

教員  
〔沿革〕沿革布令目錄ニ詳ニス

◎小學校教員學力檢定試驗細則  
◎明治二十年四月七日北海道廳令第二十四號



明治十九年文部省令第十二號小學校教員免許規則第十六條ニ基キ小學校教員學力檢定試驗細則左ノ通定ム

小學校教員學力檢定試驗細則

第一條 小學校教員學力檢定試驗ハ毎年七月札幌八月函館九月根室ニ於テ施行スルモノトス  
第二條 小學校教員學力檢定試驗願書ハ左式ニ依リ履歷書及試驗手數料ヲ添ヘ郡區役所ヲ經テ其年六月中ニ差出スヘシ

但履歷書ハ學業仕官營業賞罰等ニ關スル事項ヲ詳記スヘシ

小學校教員學力檢定試驗願

私儀小學校教員志願ニ付札幌又ハ函館根室ニ於テ學力(何々)御試驗相受度履歷書相添此段奉願候也

北海道府國郡區町村番地身分戶主或ハ誰

男女

當時國郡區町村番地寄留

名 印

姓

何年何月生

長官宛

右者從來ノ行狀等不都合ノ廉無之候依テ與印ノ上進達候也

郡 區 長 印

第三條 小學校教員學力檢定試驗ヲ願フモノハ手數料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

第四條 各學科檢定試驗用圖書ハ北海道師範學校教科用圖書ニ據ル

但家事ハ用書ヲ豫定セズ

◎小學校教員免許狀手數料

○明治二十年四月七日北海道廳令第二十五號

明治十九年文部省令第十二號小學校教員免許規則第十五條小學校教員免許狀手數料左ノ通定ム

小學校教員免許狀手數料

- 一 免許狀ヲ受クルモノ 金五拾錢
- 一 免許狀ノ書替ヲ願フモノ 金貳拾錢

◎小學校教員及授業生免許規則

○明治二十年四月七日北海道廳令第二十六號

小學校教員及小學校授業生免許規則左ノ通定ム

小學校教員及小學校授業生免許規則

第一條 小學校教員免許狀ハ年齡十八年以上小學校授業生免許狀ハ年齡十五年以上ニシテ其學

力檢定試驗ニ及第シタルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第二條 小學校教員免許狀ハ道廳長官ヨリ授與シ管内有効ノモノトシ小學校授業生免許狀ハ郡

區長ヨリ授與シ其所轄部内限り有効ノモノトス

第三條 小學校教員及小學校授業生免許狀ハ三ヶ年ヲ以テ一期トス期滿ル毎ニ勤務ノ經歷ニ依

リ適任ノモノト認ムルキハ更ニ免許狀ヲ授與スルモノトス

第四條 小學校教員及小學校授業生學力檢定試驗ハ左ノ學科程度ニ據リテ之ヲ施行スルモノト

倫理 人倫道德ノ要旨  
 教育 德育智育體育ノ大意實地授業法  
 讀書 漢字交リ文簡易ナル漢文  
 作文 日用書類及漢字交リ文  
 習字 楷書行書草書  
 算術 珠算 加減乘除四則雜題  
 地理 本邦地理歴史ノ大意  
 歴史 動物植物物理化學ノ大意  
 第五條 檢定試験ノ點評各學科一百ヲ以テ定點トシ簡易科教員ハ五十以上授業生ハ四十以上ヲ合  
 格點トス  
 第六條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖モ之  
 ヲ沒收スヘシ  
 一 新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑  
 ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ  
 一 但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルヲ能スシテ輕禁錮ノ刑ヲ  
 受ケタルモノハ此限ニアラス  
 一 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ  
 一 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ  
 一 荒鹵暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一 舊法ニ依リ懲役若クハ禁錮若クハ鎖籠ノ刑ニ處セラレタルモノ  
 一 但贖金罰金ヲ納ムルヲ能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス  
 第七條 前條ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノト雖モ其事情ニヨリ特ニ免許狀ヲ授與スルコトアル  
 ハシ  
 第八條 小學簡易科教員及小學校授業生免許狀ノ書式左ノ如シ

小學簡易科教員免許狀書式

免許狀	族籍	姓	名
			何年何月生
右ハ明治何年何月何日ヨリ明治			
何年何月何日マテ三ヶ年間小學			
簡易科教員タルヲ免許ス			
年 月 日	長官印		
番號			

小學授業生免許狀書式

免許狀	族籍	姓	名
			何年何月生
右ハ明治何年何月何日ヨリ明治			
何年何月何日マテ三ヶ年間授業			
生タルヲ免許ス			
年 月 日	郡區長印		
番號			

第九條 小學簡易科教員ノ免許狀ヲ得ルモノハ尋常小學科以上ノ授業生タルヲ得  
 第十條 小學簡易科教員學力檢定試験願書ハ左式ニ依リ履歷書ヲ添ヘ郡區役所ヲ經テ其年六月中

差出スヘシ

但履歷書ニハ學業仕官營業賞罰等ニ關スル事項ヲ詳記スヘシ  
小學簡易科教員學力檢定試驗願

私儀小學簡易科教員志願ニ付札帳(又ハ函館根室)ニ於テ學力御試驗相受度履歷書添へ此段奉願  
候也

北海道  
府 國郡區町村番地身分戶主或ハ誰

男女

當時國郡區町村番地寄留

姓 名 印

何年何月生

年月日

長官宛(小學授業生學力檢定  
試驗願ハ郡區長宛)  
右者從來ノ行狀等不都合ノ麻無之候依テ與印ノ上進達候也

郡 區 長 印

第十一條 小學簡易科教員學力檢定試驗ハ毎年七月札帳八月函館九月根室ニ於テ施行シ小學授業  
生學力檢定試驗ハ郡區役所ニ於テ適宜施行スルモノトス

第十二條 小學簡易科教員又ハ小學授業生學力檢定試驗ヲ願フモノ及其免許狀ヲ受クルモノハ左  
ノ手数料ヲ納ムヘシ

但本文試驗手数料ハ願書ト共ニ差出スヘシ其既ニ差出シタル手数料ハ願下ヲナシ若クハ試驗  
ニ應セサル時ト雖モ之ヲ還付セサルモノトス

- 一 試驗ヲ願フモノ 金五拾錢
  - 一 免許狀ヲ受クルモノ 金貳拾五錢
  - 一 免許狀ノ書替ヲ願フモノ 金拾五錢
- 生徒

〔沿革〕沿革布令目錄ニ詳ニス  
◎官立公立學校ニ於テ退學ヲ命セラシメテ爾後文部卿ヨリ入學禁止ノ者ハ公私立學校へ入  
學セシメサルヲム

○明治十八年八月二十一日函館縣乙第十九號達(郡區役所宛)  
官立公立學校ニ於テ不都合ノ行爲アリ退學ヲ命セラシメテ爾後文部卿ヨリ官立公立私立ノ學校へ入學  
禁止相成候者ハ其部内公立私立ノ學校へ入學セシメサル採取計フヘシ此旨相達候事  
但其族籍姓名等ハ其都度學務課ヨリ通知スヘシ

◎師範學校生徒募集ノ廣告期限

○明治二十年六月二日北海道應訓令號外師範學校宛  
其核ニ於テ生徒募集ノ節ハ入學試驗期日ヨリ凡三ヶ月前ニ廣告スヘシ

◎郡區長ノ薦舉ニ係ル師範生徒ニ關スル諸規定

○明治二十年六月三日北海道應訓令號外(郡區役所宛)  
明治十九年五月文部省令十號尋常師範學校生徒募集規則第十一條ニ基キ郡區長ノ薦舉ニ係ル方法左  
ノ通定ム

郡區長ノ薦舉ニ係ル師範生徒募集方法

第一條 郡區長ノ薦舉ニ係ル尋常師範生徒ハ郡區長所轄部内在籍ノモノ若クハ寄留一年以上ノモノタルヘシ其簡易學科生徒ハ全上ニシテ年齡十九年以上四十年以下ノモノタルヘシ

第二條 郡區長ハ北海道尋常師範學校ニ於テ廣告スル生徒募集人員ニ照シ志願者ヲ調査シ其人員有無ヲ該校ニ通知スヘシ

○明治二十一年十月十五日北海道廳訓令號外郡區役所宛

北海道尋常師範學校ニ於テ郡區長薦舉ニ係ル生徒ハ入學試験ヲ用ヒス直ニ假入學ヲ許シ試驗生中ニ其人物學力ヲ檢定シテ本入學ヲ許否スヘキニ付自今右薦舉ノ際ハ一層其人物學力ノ檢定ヲ精密ニスヘシ

○明治二十一年十月十五日北海道廳訓令號外師範學校宛

郡區長ノ薦舉ニ係ル生徒ハ入學試験ヲ用ヒス直ニ假入學ヲ許シ試驗生中ニ其人物學力ヲ檢定シテ本入學ヲ許否スヘシ

學齡子女

〔沿革〕沿革布令目錄ニ詳ニス

○學齡兒童就學規則

○明治二十年四月七日北海道廳令第二十三號

學齡兒童就學規則

第一條 學齡兒童就學ノ事ハ戶長之ヲ掌理シ郡區長之ヲ總管スルモノトス

第二條 戶長ハ戶籍簿ニ就キ其年九月ヨリ翌年八月迄學齡ニ在ル兒童ヲ調査シ本籍寄留ヲ分テ學年ノ始三十日前迄ニ學齡名簿ヲ編製スヘシ

第三條 戶長ハ小學校長或ハ首座教員ト商議シ入學ヲ許スヘキ兒童數ヲ定メ其生年月ノ順次ニ從ヒ父母後見人ニ左ノ入校票ヲ交付スヘシ

北海道郡町村番地族某長男女  
(寄留者ハ本籍寄留ヲ併記スヘシ)

入校票

姓 名

生年月日

右本年何月何日ヨリ何小學校へ入學セシメ候也

明治 年 月 日

何 戶長 役場

第四條 入校票ヲ受ケタル父母後見人ハ其期日ニ於テ兒童ヲ伴ヒ學校ニ至リ入校票ヲ差出スヘシ

第五條 父母後見人ニ於テ兒童ヲ入學セシムル能ハサルモノハ入校票ヲ受ケタル時若クハ事故ノ生シタル時其旨ヲ戶長ニ申出ヘシ

第六條 戶長ハ前條ノ申出ヲ正當ト認ルトキハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ猶豫シ又ハ其ノ兒童ノ父母後見人ニ入校票ヲ發スルコトアルヘシ

第七條 戶長ハ前條父母後見人ノ申出ヲ適當ナラスト認ムルトキハ説諭ヲ加ヘ勉メテ其兒童ヲ入學セシムヘシ

第八條 入學兒童事故アリテ缺席一ヶ月以上ニ及ブモノ又ハ無届缺席十五日以上ニ及ブモノアル

トキハ學校長或ハ首座教員ハ其姓名ヲ戶長ニ通知スヘシ

第九條 學齡兒童アリテ公立學校ニ入ル私立學校ニ入ルカ又ハ家庭教育ヲ爲スモノアラハ戶

長ハ其旨ヲ學齡簿ニ記入スヘシ

第十條 就學猶豫ヲ與フヘキモノハ概テ左ノ如シ

- 一 疾病ニ罹ル者
- 一 親戚疾病ニ罹リ他ニ看護ノ人ナキ者
- 一 廢疾ノ者
- 一 就學スヘキ場所ナキ者
- 一 家計ヲ助クル爲メ就學スヘキ時間ナキ者

町村學事職員

〔沿革〕沿革布令目錄ニ詳ニス

○教育令改正ニ付學務委員ニ於テ取扱ノ事務戶長ヘ引繼シム

○明治十八年八月二十八日函館縣丙第二十九號郡區役所宛

本年第二十三號ヲ以教育令改正布告相成候ニ付テハ從來學務委員ニ於テ取扱候事務此際戶長ヘ引

繼キ戶長ハ引受クヘキ旨戶長及ヒ舊學務委員ヘ相達スヘシ此旨相達候事

但シ郡區長ニ於テ戶長ノ職務ヲ兼テタル所ハ郡區長之ヲ引受クヘシ

○明治十八年八月二十九日札幌縣甲第五十號布達

明治十六年五月甲第二十一號布達學事規則中學務委員薦舉法相廢シ該員取扱ノ事務ハ凡テ戶長戶長ナリカサル町村ハ郡區長ニ於テ取扱ハシム

但明治十六年五月甲第二十四號布達ハ消滅ノ義ト心得ヘシ

右布達候事

○明治十八年八月二十九日札幌縣乙第六十號達郡區役所戶長役場宛郡區長ニ於テ取扱ノ事務ハ凡テ戶長ニ引繼キ戶長ハ之ヲ受繼取扱

フヘシ

但戶長ヲ置カサル町村ハ郡區長ト受渡スヘシ

右相達候事

學校補助金

〔沿革〕明治九年十一月開拓使札幌本廳丙第二百五十七號達ヲ以テ教育補助金ハ公立

ニ限ル者トス○十三年全廳達丁第四十八號教育補助金額ヲ定ム○全年五月全

使函館支廳第五十一號達小學教員月俸官給ヲ廢シ補助金配布及支拂概則ヲ定

ム○全年全廳第五十二號達補助金配當額○十五年札幌縣乙第六號達ヲ以

教育補助金下付割合ヲ指示ス○全年十月根室縣乙第六十四號達小學校補助金

配付及支拂概則ヲ定ム○十六年八月函館縣甲第三十六號布達教育補助金配賦

及支拂規則ヲ定ム○十八年札幌縣乙第五十一號達公立小學校補助金配當概則

ヲ定ム○全年七月根室縣乙第八號達教育補助費配賦方ヲ示ス○二十年四月

北海道廳令第二十一號ヲ以尋常科以上ノ學校町村費補助ヲ要スル場合伺出シム

◎尋常科以上ノ學校町村費補助伺出方

小學尋常科以上ノ學校ニ於テ明治十九年四月勅令第十四號小學校令第八條ノ町村費ヨリ補助ナクシ  
ハ經費ヲ辨シ能ハサル場合ニ於テハ區會若クハ總代人會ヲ開ク以前其事由ヲ具シ伺出ヘシ

學校維持法

〔沿革〕沿革布令目錄ニ詳ニス

◎町村立小學校資產管理規程及經費收支法

明治二十年四月七日北海道廳令第二十號

町村立小學校資產管理規程及經費收入支出方法左ノ通定ム

町村立小學校資產管理規程及經費收入支出方法

第一章 資產管理規程

第一條 町村立小學校ノ資產ハ戶長（郡區長ニ於テ戶長ノ職務ヲ行フ箇所ハ郡區長）之ヲ管理スルモノトス

但二戶長役場所轉以上聯合ノ設置ニ係ル小學校ノ資產ハ郡長之ヲ管理スルモノトス

第二條 町村立小學校資產ノ寄託若クハ貸付方法ヲ定メ又ハ變更セントスルトキハ管理者ニ於テ

區會若クハ區町村總代人會ノ評決ヲ取リ（戶長ハ郡長ヲ經下ニ之ニ依テ）長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 區町村ノ公撰ヲ以テ別ニ小學校資產取扱人ヲ置クヲ得

但本文ノ場合ニ於テハ管理者ニ於テ其取扱手續ヲ定メ區會若クハ區町村總代人會ノ評決ヲ取

リ長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 確實ナル抵當アルニアラザルハ小學校ノ資金ヲ寄託又ハ貸付スルコトヲ得ス

但隱遞局貯金預所及國立銀行ハ本文ノ限ニアラス

第五條 小學校ノ資本金ヲ支消シ又ハ所有ノ土地建物等質入書入又ハ賣却スルコトヲ得ス

但不得止場合ニ於テハ管理者ニ於テ區會若クハ區町村總代人會ノ評決ヲ取リ長官ノ認可ヲ受

クヘシ

第六條 小學校ノ資產又ハ經費ノ爲メ土地建物金銀物品等ヲ寄付スルモノアルキハ該員數價格年

月日族籍姓名ヲ帳簿ニ記シ領收證ヲ交付スヘシ

第七條 資產管理者ハ會計年度ニ據リ資產及收利ノ收入支出調ヲ翌年五月限長官ニ報告スヘシ

第八條 資產管理者ハ左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 何小學校

資產臺帳

一 全 上

寄付受領簿

一 全 上

資產貸付寄託簿

一 全 上

備品明細簿

第二章 經費收入支出方法

第九條 町村立小學校經費ハ管理者ニ於テ會計年度ニ據リ第一號第二號書式ニ準シ其豫算ヲ調製

シ毎年一月三十一日限長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 町村立小學校經費ノ收入目左ノ如シ

一 授業料

一 寄付金

一 積金利子學校附屬地收益等

一 區町村費(小學簡易科ノ學校又ハ小學部科以上ノ學校ニシテ特ニ長官ノ認可ヲ經區町村ヨリ補助スルモノニ限ル)  
 一 雜收入  
 第十一條 町村立小學校ノ經費支出目左ノ如シ  
 一 學校長俸給  
 一 教員俸給  
 一 授業生俸給  
 一 旅費  
 一 小使給料  
 一 慰勞金  
 一 生徒賞與  
 一 教場器械及書籍費  
 一 學校器具費  
 一 薪炭油費  
 一 營繕費  
 一 消耗費  
 一 雜費  
 第十二條 小學校常用定額内ノ出納ハ時宜ニ依リ學校長若クハ首座教員ヲノ掌理セシムルヲ得  
 第十三條 前條ノ場合ニ於テハ學校長若クハ首座教員ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ元金ヲ資產管理者ニ受ケ  
 常用仕拂ヲ領收證ヲ徴シ(條給旅費慰勞金等ノ本入ノ買印ヲ要ス) 毎月月計精算簿ヲ作り翌月五日迄ニ資產管理者ニ報

告スヘシ  
 一 何小學校  
 一 全 上  
 常用請拂簿  
 月計精算簿  
 第十四條 資產管理者ハ第三號第四號書式ニ依リ町村立小學校經費收入支出ノ精算書ヲ調製シ每  
 年五月限リ長官ニ報告スヘシ  
 第十五條 資產管理者ハ一小學校毎ニ經費出納簿ヲ備ヘ其收支ノ要領ヲ明瞭ニスヘシ  
 第一號書式  
 明治何年度何郡區何小學校經費支出豫算  
 ×前々年度實費金何程  
 ×前年度豫算金何程  
 一金何程  
 ×比較  
 ×金何程  
 (増減ノ理由ヲ摘記スヘシ)  
 何年度支出豫算額  
 ×前年度ヨリ増  
 校長俸給  
 月俸何圓何ヶ月分  
 教員俸給  
 月俸何圓何人何ヶ月分  
 以下之ニ準ス





金何程

右精算報告仕候也

年月日

長官姓名殿

何那區何町村戸長

又ハ何那區區長

何 何

誰 誰  
印 印

×印ハ米書

○小學資産管理規程及經費收支法中帳簿様式

○明治二十年四月十二日北海道廳訓令第十二號那區役所宛

今般北海道廳令第二十號ヲ以テ施行ノ小學校資産管理規程及經費收入支出方法中帳簿ノ様式ハ別

紙ノ通各校同一ニ調製スヘシ

右訓令ス

(帳簿様式略ス)

學事年報

[沿革]前項ニ同シ

○學事年報様式

○明治二十年十一月八日北海道廳訓令第二百二十八號那區役所宛

學事年報様式別紙ノ通定ム

(別紙)

月	校	公	立	小	學	日々出席生徒平均數		總	額
						私	公		
授	業	末	一	ケ					
料									
平	最	最	總						
均	察	多	額						
額	額	額							

入ス可シ○卒業生徒ハ本年中ノ卒業生徒ノミヲ算入ス可シ○日々出席生徒平均  
取スヘシ○人口及學齡人員ハ本籍寄留ヲ論セス總テ現在居住スルモノヲ算入ス  
中就學セシモノハ總テ之ヲ算入ス可シ卒業退學者ノ欄内ニハ高等科及尋常科簡  
學者ノ欄内ニハ尋常科簡易科ヲ卒ヘスシテ本年中就學セサルモノヲ算入ス可シ











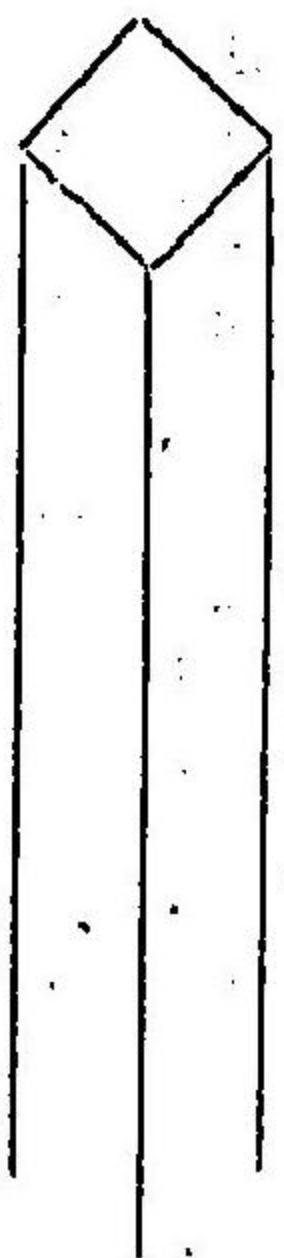


第十八類

外國人旅行、遊歩

◎外國人遊歩境界十里杭建立

○明治六年四月十八日開拓使函館支廳第九十四號布達  
十里境界杭



但八寸角長サ二間以上

雜木ニテモロシ

- 壹本 木古内村
- 壹本 市渡村
- 貳本 宿野邊村
- 貳本 軍川村
- 壹本 赤川村
- 壹本 龜尾村
- 壹本 尻岸内村

右者外國人遊歩境界ノ爲メ十里杭御取建可相成ニ付書面ノ通於村々伐木致置可申近々出張ノ上進  
方申付候間差支不相成様可致尤相當ノ入費下渡候條此段相達候也



○外國人止宿届出方

明治七年八月二十七日開拓使札幌本廳無號達札幌郡宛  
外國人通行ノ義ハ一般規則モ有之止宿等爲致候ハ、其旨可届出管ニ候處無其義止宿等爲致候者モ  
有之哉ニ相聞不都合ニ候條自今別紙離形ノ通屹度届書可爲差出此段兼テ驛遞並旅籠屋渡世ノ者へ  
無洩可申達此旨相達候事

(別紙)

離形

外國止宿ノ義御届奉申上候書付

院省府縣

公私雇入

一何國人

何 某 何 人

但付添有無

一通行免列 但所持ノ分ハ寫可差出事

右之者何月何日何地ヨリ到着何地へ向テ罷越候趣ニテ私方へ止宿爲仕候間此段御届奉申上候以上

何區何小區何通旅籠屋渡世

年月日

何 某 印

開拓大判官松本十郎殿

前書之通届出候ニ付此段與印仕候以上

年月日

正副 戸長 印

○外國人遊歩期程内市街村落ニ於テ止宿ノ義ニ付第百八十九號公達

宿泊渡世者へ諭達方

明治八年十二月十五日開拓使函館支廳番外達市街長宛  
外國人遊歩期程内市街村落ニ於テ止宿ノ義ニ付第百八十九號御達之趣モ有之候ニ付テハ宿泊渡世  
ノ者へ兼テ諭達致シ置可申若右外國人止宿ヲ名トシ地所家屋ヲ賃借スルカ商賣取引スルカ又ハ其  
事ヲ企ル趣見聞候ハ、函館支廳民事課或ハ出張所へ早々申出可受指圖此旨相達候事

○我國在留公使及屬員等旅行ノ節禮遇方

明治十七年十月十日札幌縣無號達警察署宛

我國在留公使及公使館屬員ニ至ル迄旅行ノ節ハ相當ニ禮遇スルハ彼我交際上ニ於テ緊要ナル義ニ  
有之尤外國公使ナルモノハ假令旅券無之トモ自由ニ在留國內ノ内地ヲ旅行シ得ルノ特權ヲ享有致  
居候儀ニ付旅行ノ沿道ニ於テ相當ノ補助周旋ヲ與フヘキハ勿論萬一違犯ノ所爲アリトスルモ禮ヲ  
以テ其名刺ヲ取ルノミニ止リ決シテ旅行ノ自由ヲ止メ或ハ辨論推問ニ涉ラサル様深ク相心得巡査  
ヘハ警部ニ於テ懇篤告示スヘシ且各國總領事ノ如キハ無免狀ニテ内國自由ニ通行可致義ハ條約上  
ニモ有之候通ニ付是亦相當禮遇候義ト心得ヘシ此旨内達候事

外國軍艦訪問

○諸港灣へ外國軍艦碇泊ノ節報告方

明治二十二年七月十二日北海道廳訓令號外郡長(空知樺戸)宛  
管下諸港灣ニ外國軍艦碇泊ノ節郡長戸長ハ訪問シ左ノ區別ニ從ヒ海軍大臣及横須賀鎮守府司令長  
官ニ報告スヘシ

但其港ニ我軍艦碇泊スルトキハ報告ニ及ハス

- 一 艦名並入津月日時刻
- 一 何ノヨリ何用ニテ入港何用ニテ何レニ出港
- 一 右電信ニテ報告スヘシ電信局ナキ地ハ最近ノ電信局マテ郵便ヲ以テ送り全前ヨリ電信ニテ報告スヘシ
- 一 乘員ノ舉動及其他見聞ノ次第
- 一 右郵便ニテ報告スヘシ

清國人犯罪處分方

○明治二十二年一月三十一日北海道廳訓令號外警察署宛

清國人帝國内ニ於テノ犯罪處分方ニ付別紙ノ通司法大臣ヨリ訓令有之候條右ニ依リ取扱フヘシ

(別紙)

司法省刑第四號

警 視 廳  
北 海 道 廳  
府 縣 (東京府)

清國人帝國内ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シ治罪法第百條第百一條ニ相當シ急速ヲ要スル場合ニ於テハ逮捕其他警察上ノ處分ヲ爲スヘシ

但本文ノ場合ニ於テ其處分方ハ司法警察訓則第四百七條ノ區分ニ從フヘシ

右訓令ス

明治二十二年一月十七日 司法大臣伯爵 山田 顯義

### 第十九類

徵兵

〔沿革〕明治十年一月開拓使函館支廳第一號布達函館ハ海岸砲兵ヲ徵カレ全所并ニ福  
山江差人民ヨリ丁壯ヲ徵募ス○同月第一號達海岸砲隊常備補充兵徵募手續ヲ  
定ム爾後函館福山江差市街徵兵ニ關スル令達多シ沿革目錄ニ詳ニス

○徵兵參事員職務取扱方

○明治二十二年四月十七日北海道廳令第二十七號

本年ニ勅令第十三號徵兵事務條例第六十九條ニ依リ徵兵參事員ノ職務取扱ヲ定ムル左ノ如シ  
府縣徵兵參事員ノ職務ハ理事官郡市徵兵參事員ノ職務ハ郡區長之ヲ行フ

陸軍

豫備及後備軍、鎮臺、歸休兵、召集(付)函館砲臺

〔沿革〕沿革目錄ニ詳ニス

○豫備兵及後備兵服役年限計算方

○明治十七年三月二十九日函館縣乙第十八號達區役所宛

昨十六年十一月第四十六號布告ヲ以テ徵兵令御改正和成候ニ付テハ目下豫備兵及後備兵服役ノ者ハ  
同令第三條及第四條ニ據リ左ノ通り可相心得旨陸軍省達有之候條此旨相達候事

一 目下豫備兵服役中ノ者ハ最初豫備軍へ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ四十年ノ役ニ服  
セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

但定期ニ非ラズシテ臨時豫備軍へ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四ヶ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

一 目下後備兵服役中ノ者ハ最初後備軍へ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ五ヶ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

但定期ニ非スシテ臨時後備軍へ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ五ヶ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

○明治十七年四月十日札幌縣乙第九十七號達那區役所宛

昨十六年<sup>十二</sup>第四十六號布告ヲ以テ徵兵令改正相成候ニ付テハ目下豫備兵及後備兵服役ノ者ハ同令第三條及第四條ニ據リ左ノ通り可相心得旨陸軍省達有之候條爲心得此旨相達候事

(左記ハ函館縣乙第十八號達ニ全シ略ス)

○後備軍司令部及同官員職名

○明治十七年八月十九日函館縣乙第四十六號達那區役所宛

後備軍司令部及全官員職名ノ儀ニ付達甲第三十三號及全第三十四號(八月官報第三十三號)ニテ陸軍省ヨリ達有之候條此旨相達候事

○近衛下士豫備役及後備軍驅員編入替

○明治十九年三月九日北海道廳已第二號達那區役所宛

近衛下士滿期又ハ家事故障ニ依リ豫備役及ヒ後備軍驅員ニ入籍ノ者ハ自今近衛驅員ニ相定候就テハ從前近衛下士ニシテ既ニ本籍地方所管鎮臺ノ豫備役及後備軍驅員ニ編入シ今猶在役ノ者ハ此際

更ニ近衛豫備役及ヒ後備軍驅員ニ編入替爲致在郷中ハ本籍地方所管鎮臺ノ管理ニ屬セラレ右相達ス

○函館江差福山徵兵及歸休兵等取扱方陸軍省送甲六七三號訓令ヲ心得シム

○明治二十年六月二日北海道廳訓令號外函館區役所 松前區役所 檜山郡役所 宛

陸軍省ヨリ左ノ通訓令アリ

送甲第六七三號

北海道廳

其應管下函館江差福山三ヶ所徵兵及歸休兵並ニ豫備後備兵取扱方左ノ通定ス

一 本年既ニ徵集セシ現役砲兵及ヒ看護卒ハ此際總テ補充員ニ組替ヘ服役一ヶ年ノ後第一豫備徵員ニ編入ス

一 本年第二次徵兵ヨリ徵員配當兵種撰定等總テ第二軍管第四師管在籍ノ者同様取扱仙臺鎮臺ニ徵集ス

一 明治十九年以前ノ徵兵ニシテ歸休又ハ豫備後備在籍ノ者ハ平戰兩時共ニ別命アルニ非サレハ召集セス

明治二十年五月十二日

陸軍大臣伯爵 大山 巖

○陸軍召集事務取扱手續

○明治二十年十月十一日北海道廳訓令第百十九號那區役所 檜山郡役所 宛

陸軍召集事務取扱手續別冊ノ通定ス

但別冊ハ別ニ配付ス

(別冊)

陸軍召集事務取扱手續

- 第一條 條例(陸軍召集條例)第二十七條驅員ノ徵兵未行地ニアル者ノ召集令狀ハ函館區駐在官ニ於テ豫メ本人所在ノ郡區長ヘ送付シ置ク等ニ付郡區長ハ之ヲ備置キ條例第二十九條ノ達ニ隨ヒ該令狀ヘ年月日ヲ記入シ條例第三十條ノ手續ヲナスヘシ
- 第二條 條例第二十八條第一項ノ場合ニ於テ召集ニ應スヘキ人名ヲ承知セントスルトキハ郡區長及戸長ハ召集人名表(第一式)ヲ貸與スヘシ  
但本文人名表ハ平時ニ調製シ異動アル毎ニ訂正シ置クヘシ
- 第三條 同條第二項ノ軍用旅舎ハ郡區長ニ於テ沿道宿驛ニ若干ヲ指定シ其承諾書ヲ徵シ之ヲ警察署分署派出所等ヘ通知シ置クヘシ  
但旅舎ヲ指定シタルトキハ宿泊料ハ一泊凡金二十八錢ヲ最上限トシ豫約シ置クヘシ  
一 標旗標燈ハ別ニ官ヨリ給セサルヲ以テ旅舎所有ノ旗章又ハ高張若クハ提燈等ニ陸軍ノ徽章ヲ付着セシムヘシ  
一 枝道ニ在テハ本條ノ例ニ據ラス戸長役場ニ就キ其宿舎ヲ請求セシムヘシ  
但戸長役場ニ於テハ見易キ標旗標燈ヲ揚クルヲ良トス又往還ヨリ離隔セル戸長役場ノ如キハ召集下令中一時沿道ニ出張所ヲ設ク召集者ノ便宜ヲ計ル等平時夫々計畫ヲナシ置クヘシ
- 第四條 同條第三項ノ河川港灣等通行ノ要地ハ警察署長ニ於テ豫メ指定シ警察署分署派出所等ヘ達シ置クヘシ

第五條 條例第二十九條ノ達ハ函館出張所ヨリ電信ヲ以テ郡區役所ヘ達ス電信局ナキ地ノ郡役所ヘハ左ノ郡役所ヨリ豫定ノ脚夫ヲシテ遞傳刻付ヲ以テ急速通達スヘシ尤函館區役所龜田郡役所ヘハ函館出張所ヨリ直ニ通達スヘシ  
但遞傳ノ脚夫ハ沿道郡區役所ニ於テ豫定シ事ニ臨ミ差支ナキ様計畫ヲ爲シ置クヘシ

在久遠郡役所ハ 檜山郡役所ヨリ  
在古平郡役所ハ 小樽郡役所ヨリ  
在石狩、増毛、宗谷郡役所ハ 札幌郡役所ヨリ  
在網走、紗那郡役所ハ 根室郡役所ヨリ

第六條 前條ノ通達ヲ得タル警察署長ハ速ニ警部警部補巡查ヲシテ條例第二十八條ニ掲クル件々ヲ執行セシムヘシ  
但其分擔人員等適宜豫定シ置クヘシ尤分擔ノ區域ハ可成戸長役場所轄内ヲ分割セサルヲ要ス

第七條 條例第三十條ニ依リ郡區長ニ於テ豫定ノ脚夫ヲ以テ戸長ニ達シ驅員兵員ノ旅費下付ノ場合ニ於テハ驅員兵員ノ數其他ノ狀況ニ依リ郡區書記又ハ雇員等ヲ派出シ戸長役場ノ事務ヲ佐ケシムル等迅速處理ノ方法ヲ豫定シ置クヘシ

第八條 第五條第六條ノ警察分署派出所戸長役場等ヘノ通達書ハ第一様式ノ例ニ準シ郡役所警察署ニ於テ豫メ調製シ發令ニ臨ミ年月日時ヲ記入直ニ發シ得ヘキ様準備シ置クヘシ  
但條例第四十九條警報モ本條ト同シク豫メ調製シ置クヲ要ス

第九條 條例第三十條第三十一條ノ召集令狀ヲ配達スルハ領收證書(第三様式)ヲ添ヘ發遣シ之ニ捺印セシメ後證トナスヘシ此用紙ハ豫メ郡區役所及ヒ戸長役場ニ於テ人員ニ應シ調製シ置ク

但戸長役場ニ於テハ本條ノ領收證書用紙ヲ令狀ノ片隅ニ糊付シ置クヲ要ス  
 一 近衛兵ニ限リ發令ノ時參着期限ヲ達セラル、等ニ付戸長ニ於テ令狀裏面ヘ其期日ヲ記入ス  
 第十條 條例第三十一條ニ依リ戸長ニ於テ令狀ヲ各自ニ配達スルハ時宜ニ依リ雇員小使等ヲシテ  
 配達セシムル等務メテ遲滞ナカラシムヘシ  
 第十一條 雇員兵員寄留先キヨリ召集ニ應ゼンコト欲スル者ハ本年陸軍省訓令甲第一號ニ依リ戸  
 長郡區長及ヒ函館區駐在官ヲ經テ後備軍司令官ニ願出許可ヲ受クシムヘシ  
 但通報人變換セシキハ本條ノ手續ヲ以テ其旨届出シムヘシ  
 第十二條 前條既ニ許可濟ノ者ハ旅費令狀トモ通報人ヘ相渡通報人ヨリ直チニ寄留地ヘ送付シ速  
 ニ出發スベキ旨通報セシムヘシ  
 但本文ノ旅費額ハ本籍ヨリ召集地(近衛兵)迄ヲ計算シ支給スルモノトス  
 第十三條 前條寄留先ヨリ召集ニ應スルモノノ疾病其他ノ事故ニテ召集ニ應シ難キ時ハ條例第四十  
 二條第四十三條ニ準ジ届出シムヘシ  
 第十四條 條例第三十二條及第五十三條ノ各自參着地ハ函館出張所ヨリ郡區役所ニ通過シ郡區役  
 所ハ戸長役場ニ傳達スヘシ  
 但鐵臺輜重兵並ニ輸卒參着地ハ退テ規定セラルヘシ  
 第十五條 郡區長戸長ハ令狀配達人發着時刻ヲ取調置クヘシ  
 第十六條 雇員兵員ハ旅費ヲ交付スルキハ召集令狀ヲ照査シ受領證(第四樣式)捺印セシメタル後

交付スヘシ

但受領證ハ人員ニ應ジ豫メ調製シ令狀ト共ニ格納シ置クヲ要ス  
 第十七條 雇員兵員召集ノ途中疾病又ハ川支其他ノ事故ニテ戸長ノ證認書ヲ請求スルトキハ事實  
 ヲ調査シ速ニ之ヲ(第五樣式)與フヘシ  
 但戸長役場經過後ノ宿驛村落ニ至リ滯留スルモ戸長役場ニ至リ證認書ヲ請求セシムヘシ此場  
 合ニ於テ生スル時間ハ滯在日數ニ合算スヘシ  
 一 單行途中近傍醫師ナキ村落等ニ於テ發病滯留醫師ヲ迎フルノ手續キナシ難ク不得止場合  
 ニ於テハ戸長又ハ警察官ニ於テ證認書ヲ與フヘシ  
 一 若戸長役場ト遠隔ニシテ實際不得止ハ旅費主或ハ最寄其村重立タル者ヲシテ證認セシム  
 ルモ妨ケナシ  
 第十八條 前條ノ場合ニ於テ雇員兵員旅費欠乏シ召集地又ハ近衛集合地ニ至リ難キ旨申出ル者ア  
 ルハ其地戸長ニ於テ事實ヲ調査シ全ク不得止ヨリ欠乏ヲ來タシ旅行難相成者ニ限リ一時戸長  
 ニ於テ旅費ヲ貸與シ(明治二十五年五月訓令)旅行差支ナキ權取計而シテ其事由詳細直ニ函館出張所ヘ  
 届出ヘシ  
 但本文貸與ハ前條證認書ヲ與フル者ニ限ル  
 第十九條 召集令狀ヲ各自ニ配付シタル後戸長ハ二十四時間ヲ過キ應徵者不應徵者ヲ取調三日以  
 内ニ召集人員表(第六樣式)ヲ調製郡役所ヲ經テ函館出張所ヘ差出スヘシ  
 第二十條 條例第四十三條第五十九條第七十五條第八十九條ノ但書ニ依リ令狀返付シタルモノノ遂  
 ニ解散ノ時期ニ至ルモ其事故止マサルハ召集令狀ヲ戸長ヨリ函館區駐在官ニ返付スヘシ

第二十一條 條例第四十九條分註揭示場ナキ地ハ豫メ其場所ヲ定メ置クヘシ  
但揭示場アル個所ト雖モ人民輻輳地又ハ其場所市街ノ偏僻ニアルトモ更ニ公衆ノ注目スヘキ場所ヲ撰定シ置キ揭示スヘシ

第二十二條 條例第五十條第八十二條計算書ハ(第七樣式)函館出張所へ差出スヘシ  
但原證書トハ第十六條ノ受領書ヲ云フ

第二十三條 戶長ハ計算書(第八樣式)ハ第十六條ノ證書ヲ添ヘ郡長へ差出スヘシ

第二十四條 第二十二條第二十三條ノ計算期限ハ其時ニ方リ函館出張所ヨリ通達スヘシ

第二十五條 (明治二十二年三月法律勅令第三十三號ヲ以テ削除)  
第二十六條 條例第九十七條第九十八條ノ決算ハ第二十二條第二十三條ノ例ニ準シ計算書ヲ差出スヘシ  
但殘金ヲ生シタルモハ郡區長ヨリ送金手形等ヲ以テ函館出張所へ返納スヘシ

第二十七條 條例第三百三十六條照呼召集ノモ失踪逃亡等ニテ參會セサルモノ手帳ナキモハ事由書ハ手帳ナキ旨ヲ記入セシムヘシ  
但本條ノ場合ニ於テ令狀ハ函館區駐在官へ返付スヘシ

第二十八條 條例第四百四十八條郡區役所戶長役場ノ充員名簿ハ(第九樣式)左ノ如ク分類調製スヘシ  
但第二充員召集人員ハ函館區駐在官ヨリ通知ニ依リ區分シ(令狀類モ又區分シ置キ發令ノモ混淆セサル様注意ヲ加フヘシ尤モ第二充員召集人員通知ナキモハ第一充員召集ノミト心得ヘシ)  
某地召集ノ部

一 豫備役驅員第一充員名簿  
某地召集ノ部

一 豫備役驅員第二充員名簿  
一 近衛豫備役驅員充員名簿  
某地召集ノ部

一 後備軍驅員召集名簿  
一 近衛後備軍驅員召集名簿  
某地召集ノ部

一 歸休兵充員名簿  
一 歸休兵特命充員名簿  
某地召集ノ部

一 豫備役兵員第一充員名簿  
某地召集ノ部

一 豫備役兵員第二充員名簿  
一 豫備役兵員特命充員名簿  
一 近衛歸休兵員充員名簿  
一 近衛豫備役兵員充員名簿  
某地召集ノ部

一 後備役兵員召集名簿  
某地召集ノ部

召集地毎ニ區分スヘシ下皆同シ

明治十九年以前函館區山江並ニ於テ徵兵及  
ヒ徵兵令第二十條ノ附項ニ當ル者ヲ指ク

明治十九年以前函館區山江並ニ於テ徵兵及  
ヒ徵兵令第二十條ノ附項ニ當ル者ヲ指ク

明治十九年以前函館福山江登ニ於テ徵兵及  
シ徵兵令第二十條ノ事項ニ當ル者ヲ指シテ

- 一 後備役兵員特命召集名簿
- 一 近衛後備役兵員召集名簿
- 一 現役輜重輸卒名簿

第二十九條 條例第五百十四條但書ノ各自身上異動ヲ生シ戸長役場ニ於テ召集令狀中訂正ヲ加フ  
ヘキモノハ歸休兵ヨリ豫備役ニ豫備役ヨリ後備役ニ移リ又ハ其所轄内ニ於テ轉居スル等ニシテ  
其他ハ異動届書ト共ニ郡區役所及ヒ函館出張所ヲ經テ函館區駐在官ニ送付シ訂正ヲ請クヘシ

但戸長ノ姓名ニ異動アルハ戸長ニ於テ紙片ヲ貼付シ訂正ヲナスヘシ

第三十條 條例第六十五條ニ依リ差出スヘキ召集旅費概算表ハ一郡區役所々轄毎ニ一表トシ現  
員十分ノ三(分切アルハ切上ケ一人トス假令ハ職員一人ナルハ三)加算調製スヘシ  
但本條十分ノ三ニ當ル人員ノ旅費金ハ現員中最遠隔ノ者ニ均シキ額ヲ以計算スヘシ

第三十一條 前條概算表ヲ國庫金出納所ヘ送付スルトキ各自ヘ分配ヲ便ニスルメ金種(假令ハ壹  
錢何圓壹錢)豫定交付方ヲ協議シ置クヲ要ス

○監視區長駐割地及監視區

○明治二十三年四月十八日北海道廳告示第十號

監視區長駐割地ヲ函館トナシ北海道一圓ヲ其監視區ニ定ムル旨其筋ヨリ通知アリ

○辨天町臺場内事故アルモノ、外參觀差止

○明治八年八月十八日開拓使函館支應元第四百十四號布達

函館ニ大區二小區辨天町ニアル臺場内參觀願出候者ハ是迄時宜ニ因リ差許候處今後ハ何人ニ限ラ  
ス事故有之參觀ヲ要スル者ノ外一切差止候趣同砲隊ヨリ申越候條爲心得此旨布達候事

屯田兵

〔沿革〕明治八年三月開拓使本廳中屯田事務局ヲ置ク十四年六月局ヲ改メテ係トス廳  
使後陸軍省ニ屬セラル故ニ沿革ハ專ラ開拓使ノ時ニ止ム目錄ニ詳ニス

○屯田兵扶助年限内ハ民費ヲ賦課セス

○明治十三年六月二十六日開拓使札幌本廳達丁第七十六號達札幌區役所宛  
屯田兵ハ民費賦課ノ義ニ付過般第四十二號ヲ以テ何出ノ節退テ何分ノ義可相違旨及指令置候處右  
ハ扶助滿期ノ後ハ其財產ニ應シ相當ノ民費賦課候義ト可相心得此旨相達候事

○山鼻村屯田兵移住地ヘ射的場ヲ設ク

○明治十九年一月八日札幌縣丁第五號告示  
札幌郡山鼻村屯田兵移住地外別紙圖面ノ場所ニ將校及兵員ノ射的場ヲ設ク砲術實施ニ付射擊中目  
標トシテ圖式ノ通赤旗相樹候段屯田兵本部ヨリ通牒有之候條危害無之様注意スヘシ此旨告示候事  
(圖面略ス)

戰死者墳墓 戰死者取調

○函館區役所内招魂社并戰死者墳墓管理方

○明治二十年六月三日北海道廳訓令號外函館區役所宛  
其部内招魂社並戰死者墳墓ノ義其役所ニ於テ管理スヘシ

○龜田上磯郡役所内戰死者墳墓管理方

○明治二十年六月三日北海道廳訓令號外上磯郡役所宛  
其部内戰死者墳墓ノ義其役所ニ於テ管理スヘシ

○招魂社并墳墓修繕等ハ事由ヲ具シ認可ヲ受ケシム  
○明治二十三年十二月二十七日北海道廳訓令號外招魂社受持神宮宛  
自今招魂社并墳墓修繕等ヲ要スルキハ其事由當廳へ申出認可ヲ受ケヘシ

徵發

〔沿革〕明治十六年二月札幌縣乙第十一號徵發事務條例發行ニ付諸表差出方ヲ定ム○  
同年十月同縣乙第八十七號違徵發事務取扱心得ヲ定ム○十七年一月函館縣  
甲第一號布達違徵發事務取扱手續ヲ定ム○同年五月札幌縣乙第三百三十二號ヲ以  
テ十六年乙第十一號違ヲ廢ス○二十一年十二月北海道廳令第七十六號徵發事  
務取扱手續ヲ定ム

○徵發事務取扱手續

○明治二十一年十二月二十六日北海道廳令第七十六號  
徵發事務取扱手續左ノ通定ム

徵發事務取扱手續

- 第一條 徵發ノ命令應答ハ便宜電信其他速達ノ方法ニ依ルヘシ
- 第二條 徵發書ヲ受ケタルハ北海道廳長官ハ郡區長ニ賦課シ郡長ハ戶長ニ賦課シ區長戶長ハ人  
民ニ賦課ス但時機ニ依リ直ニ賦課スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ北海道廳長官ハ郡區長ニ戶  
長ニ告知スヘシ
- 第三條 郡區長戶長ハ徵發命令書ヲ受領スルトキハ其旨ヲ回報スヘシ
- 第四條 徵發ヲ賦課スルニハ其供給力ヲ量リ便宜ノ郡區町村ヨリ始メ其營業者ヲ光トス

第五條 徵發人馬供給ノ組合ハ人馬營業組合ニ依ルコトヲ得

第六條 徵發ヲ課セラレタル者期限内ニ供給スルコト能ハサルトキハ區長戶長ニ届出ヘシ此場合  
ニ於テハ區長戶長實地ニ就キ點檢スルコトアルヘシ

第七條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタル者其家ニ病者又ハ死者アルトキハ區長戶長ニ届出ヘシ

第八條 宿舍ノ徵發ヲ課セラレタル者物品又ハ手傳人不足シ供給スルコト能ハサルトキハ區長戶  
長ニ於テ便宜之ヲ調達ス此賠償ハ本人ノ負擔トス

第九條 公有家屋ニ在テハ區長戶長ハ營業者ヲシテ食飼其他ヲ請負ハシムルモノトス

第十條 徵發物件ヲ領收スルトキハ領收證ヲ交付ス

第十一條 陸海軍官憲ヨリ受ケタル受領證票ハ區長戶長ニ差出ヘシ徵發令第四條第一項及第二項  
ニ係ルモノハ戶長ヨリ郡長ニ差出シ其第一項ニ係ルモノハ郡區長ヨリ北海道廳長官ニ差出ヘシ

第十二條 徵發令第四條第一項及第二項ノ徵發區ニ於テ負擔スヘキ費用ハ正當證書ヲ添ヘ戶長ヨ  
リ郡長ニ申出其第一項ニ係ルモノハ郡區長ヨリ北海道廳長官ニ申出ヘシ

第十三條 各徵發區ニ於テ負擔スヘキ費用ハ地方稅戶數割賦課額ヲ標準トシテ賦課徵收ス其方法  
ハ地方稅賦課徵收規則ニ據ル但徵發令第四條第三項ノ徵發區ニ係ルモノハ戶長他ノ方法ヲ以テ  
賦課スルコトアルヘシ

第十四條 評價委員ノ旅費日當ハ明治二十年六月北海道廳訓令第七十七號ニ據リ支給セラルヘシ

第十五條 徵發令第四條第四項ニ係ルモノハ此手續ヲ適用セス

第十九條 徵發



第十六條 明治十七年一月函館縣第一號布達及同年一月札幌縣乙第十二號達ハ廢止ス

徵發物件表調查方梗概

明治二十三年十二月二日北海道廳訓令第八十三號郡區役所宛  
徵發物件表調方梗概別冊ノ通改正セラレ候條自今右ニ依リ調査スヘシ  
但別冊ハ別ニ頒ツ

徵發物件調查方梗概

第三號ノ一

- 一 本表ハ美濃紙ヲ用ヒ一郡一市毎ニ調製ス三府ノ市ハ一區毎ニ調製スヘキモノトス
- 二 表式第二行何郡(市)ハ三府ニ於テハ何市何區ト記スヘキモノトス
- 三 甲部ノ計ハ府又ハ市ニ於テ別ニ一市ノ計ノミヲ一表ニ調製シ各區ノ末ニ添付スヘキモノトス
- 四 合計ハ府廳ニ於テ別ニ甲部乙部ノ合計ノミヲ一表ニ調製シ各郡市ノ末ニ添付スヘキモノトス
- 五 乙部上欄第二行(何町)第三行(何村)ハ町村ノ區域内人家連接セルト散在セルトニ拘ハラズ町村制實施ノ際他町村ト合併セザリシモノ即舊町村ヲ掲クルモノトス
- 六 町村制實施ノ際他町村ト合併シタル新町村ニシテ其町村内ノ人家連接シタルモノモ亦第二第三行ニ記載ス其人各家部落ニ散在シタルモノハ第四行ニ記載スルモノトス
- 七 同第五行組合町村ハ乙部第二行第三行ノ例ヲ本番第一行ニ記シ乙部第四行ノ例ヲ本番第二行ニ記スヘキモノトス
- 八 家屋番内戸數ハ現在軒數ヲ掲クヘキモノニシテ其軒數トハ官廳寺院學校製造所水車場倉庫廐病院ヲ除ク外人ノ現在住居スルト否トニ拘ラズ市區町村内ニ現在スル家屋ノ棟數ヲ云フ又家屋

ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノモ本番ニ算入スヘキモノトス  
同總坪數ハ家屋ノ總坪數ヲ記入ス又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市區役所町村役場等ニ  
使用スルモノモ亦算入スヘキモノトス

八 官廳番ハ官署及市區役所町村役場等ノ箇數ヲ記入スヘキモノトス

九 寺院番内軒數ハ寺院内ニ堂廡幾棟數アルモ之ヲ分別セシ一寺院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス  
同總坪數ハ各寺院ノ總坪數ヲ合算ス又寺院ノ全部若クハ幾部ヲ官署學校市區役所町村役場等  
ニ使用スルモノモ算入スヘキモノトス

十 同宿舍用坪數ハ官署學校市區役所町村役場等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘキモノトス  
學校番内軒數ハ學校内ニ教場寄宿舍等幾棟アルモ之ヲ分別セシ一學校ヲ一軒トシ計算スヘ  
キモノトス

十一 同坪數ハ各學校ノ總坪數ヲ合算スヘキモノトス  
製造所ハ公立私立ノ別ナク又製造物品ノ種類如何ニ拘ハラズ總テ掲クヘキモノトス但官立  
ニ係ルモノハ官廳ノ箇數ニ記入スヘキモノトス

十二 水車場ハ水車及蒸氣器械ノ別ナク一日一石以上ヲ搗春スル箇數ヲ記入スヘキモノトス

十三 病院番内軒數ハ病院内ニ病室幾棟數アルモ之ヲ分別セシ一病院ヲ一軒トシ計算スヘキモノトス

十四 日本形船舶番内艘數ハ日本形船舶五十石未満及倉庫船水田耕作用船及水災豫備船  
ヲ算入シ瀛船ニ非サル西洋形船舶二十噸以上ハ五十石以上ノ番ニ二十噸未満ハ艘數小廻ノ番  
ヘ朱書列記スヘキモノトス但遊船渡船橋用船ハ表上スルニ及ハス

十五 醫師及職工ノ順序ハ表式ノ順序ニ從ヒ記入ス職工ハ他ノ職工ヲ混入セス表式ニ記載シタル職工ニ限リ記入スヘキモノトス但一名ニシテ兩業ヲ兼ヌルモノ管ヘハ木挽職ニテ兼職ヲ兼ヌルモノハ木挽職何名内何名ト記入シ補職何名ノ内へ算入セサルモノトス又表式職工中其郡市ニナキモノハ其ナキヲ記スルニ及ハス

第三號ノ二

一 本表記載方ハ前第三號ノ一第一項乃至第六項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス

二 乘馬ハ現在乘馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ乘馬ニ役セシモノハ現今駕馬駄馬耕馬ニ役スルモノト雖モ乘馬ノ番ニ記載スヘキモノトス

三 駕馬ハ現在駕馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ駕馬ニ役セシモノハ現今駄馬耕馬ニ役スルモノト雖モ駕馬ノ番ニ記載スヘキモノトス

四 駄馬ハ現在駄馬ニ役スルモノヲ記載ス又曾テ駄馬ニ役セシモノハ現今耕馬ニ役スルモノト雖モ駄馬ノ番ニ記載スヘキモノトス

第三號ノ三

一 本表記載方ハ前第三號ノ一第一項第三項第四項ノ例ニ依リ調製スヘキモノトス

二 玄米ハ陸米糯米トモ算入スヘキモノトス

三 積物ハ澤庵積ヲ記入スヘキモノトス

四 一掃ハ四斗入ヲ以テ計算スヘキモノトス

行現 布令提要終

警察署及分署表 明治二十三年十二月現在 第十二類 警察署ノ廢置分合移轉等

署名	所在地	派出所又ハ交番所ノ數	駐在所數	署名	所在地	派出所又ハ交番所ノ數	駐在所數
札幌警察署	石狩國札幌區 大通四三丁目	四	五	龜田分署	渡島國龜田郡 龜田村		四
手稻分署	全 國札幌郡 下手稻村			戸井分署	全 國上磯郡 戸井村		三
江別分署	全 國江別郡 江別村			上磯分署	全 國上磯郡 上磯村		二
當別分署	全 國石狩郡 當別村			水古内分署	全 國水古内郡 水古内村		三
石狩分署	全 國石狩郡 石狩町			森分署	全 國森郡 森村		四
厚田分署	全 國厚田郡 厚田村			白尻分署	全 國白尻郡 白尻村		一
茂生分署	全 國茂生郡 茂生村			八雲分署	全 國八雲郡 八雲村		三
千歳分署	全 國千歳郡 千歳村			福山警察署	全 國福山郡 福山町		
函館警察署	全 國函館區 函館町	二		福島分署	全 國福島郡 福島村		
仲濱町分署	全 國仲濱町區 仲濱町			江長町分署	全 國江長町郡 江長町		
七飯警察署	全 國七飯郡 七飯村		五	吉岡分署	全 國吉岡郡 吉岡村		

大澤分署	渡島國松前郡 大澤村			磯谷分署	渡島國磯谷郡 島古丹村		
根部田分署	全 國全郡 根部田村			歌樂分署	全 國歌樂郡 湖路村		一
江差警察署	全 國給山郡 江差中歌町	一		八岩內警察署	全 國岩內郡 御嶺內町		
熊石分署	全 國函志郡 熊石村		一	堀林分署	全 國全郡 堀林村		
久遠警察署	後志國久遠郡 久遠村		三	古宇分署	全 國古宇郡 泊村		
奥尻分署	全 國奥尻郡 釣懸村			神惠內分署	全 國全郡 神惠內村		
太橋分署	全 國太橋郡 太橋村			小樽警察署	全 國小樽郡 小樽町		三
瀬棚分署	全 國瀬棚郡 瀬棚村			忍路分署	全 國忍路郡 忍路村		一
壽都警察署	全 國壽都郡 渡島町	二		余市分署	全 國余市郡 余市町		一
樽岸分署	全 國全郡 樽岸村			古平分署	全 國古平郡 古平町		
黒松内分署	全 國全郡 黒松内村			小泊分署	全 國美原郡 小泊村		
政治分署	全 國全郡 政治村			野塚分署	全 國野塚郡 野塚村		一
永豊分署	全 國島牧郡 永豊村	一		空知警察署	石狩國空知郡 市來知村		一

岩見澤分署	石狩國空知郡 岩見澤村			様似分署	日高國様似郡 様似村		
樺戸警察署	全 國樺戸郡 月形村		一	幌泉分署	全 國幌泉郡 幌泉村		
増毛警察署	天鹽國増毛郡 増毛町		一	越布分署	全 國三石郡 越布村		一
留萌分署	全 國留萌郡 留萌村			下々分署	全 國野内郡 下々村		
鬼鹿分署	全 國全郡 鬼鹿村			門別分署	全 國沙流郡 門別村		
苫前分署	全 國苫前郡 苫前村			釧路警察署	釧路國釧路郡 釧路町		一
焼尻分署	全 國全郡 焼尻村			昆布森分署	全 國全郡 昆布森村		
室蘭警察署	札幌國室蘭郡 札幌道	一		大津分署	十勝國十勝郡 大津村		一
有珠分署	全 國有珠郡 西紋村		二	茂寄分署	全 國虻田郡 茂寄村		
鷺別分署	全 國鷺別郡 鷺別村			川上警察署	全 國川上郡 川上村		
勇拂分署	全 國勇拂郡 勇拂村		一	厚岸警察署	全 國厚岸郡 厚岸町		
白老分署	全 國白老郡 白老村			霧多布分署	全 國全郡 霧多布村		
浦河警察署	日高國浦河郡 浦河村			根室警察分署	根室國根室郡 根室枝町		三

別海分署	根室國野付郡 別海村			宗谷警察署	北見國宗谷郡 稚內村		
標津分署	全 國標津郡 標津村			鬼脇分署	全 國利尻郡 鬼脇村		
國後分署	千島國々後郡 泊村			香深分署	全 國禮文郡 香深村		
網走警察署	北見國網走郡 北見町			紗那警察署	千島國紗那郡 紗那村		
斜里分署	全 國斜里郡 斜里村			留別分署	全 國全郡 留別村		
常呂分署	全 國常呂郡 常呂村			藥取分署	全 國藥取郡 藥取村		
紋別分署	全 國紋別郡 紋別村		合 計			二六	六一

集治監及監獄署現在表 明治二十三年十二月關 第十六類 監獄署ノ分移轉等附表

監名	稱	位 置
空知集治監		石狩國空知郡市來知村
樺戶集治監		全 國樺戶郡月形村
釧路集治監		釧路國川上郡熊牛村
札幌監獄署		石狩國札幌郡苗穂村
増毛分署		天鹽國増毛郡永壽町
函館監獄署		渡島國龜田郡龜田村
福山分署		全 國松前郡福山新荒町
江差分署		全 國檜山郡豊部内町
壽都分署		全 國壽都郡渡島町
根室監獄署		根室國根室郡根室村
厚岸分署		釧路國厚岸郡床潭村

現行  
布令提要前編附表









札幌區		札幌郡		釧路郡		美濃郡		古平郡		余市郡	
江別村	豐平村	山鼻村	下手稻村	琴似村	札幌村	野塚村	小泊村	濱町	仁木村	濱中町	濱中町
江別村	豐平村	山鼻村	上手稻村	琴似村	札幌村	野塚村	船湖村	沖村	仁木村	山日町	濱中町
對雁村(石狩郡)	白石村	圓山村	下手稻村	發寒村	苗穂村	日司村	小泊村	澤江村	大江村	黑川村	濱中町
篠津村	上白石村		山口村		丘珠村	入舸村	厚苔村	歌樂村	山道村	山田村	濱中町
	平岸村				雁來村	出岬村	幌武意村	新地町	新地町	谷部村	濱中町
	月寒村				篠路村	西河村	婦美村	群來村	群來村	川村	濱中町
						余別村				沖村	濱中町

前編第二類一四〇頁及第四類二〇七頁附表

小樽郡		高島郡		古宇郡		岩内郡		歌乘郡	
忍路郡	朝里村	直轄	郡役所	神基内村	泊村	堀株村	直轄	郡役所	潮路村
鹽谷村	(小樽郡)朝里村	南濱町	入船町	神惠内村	興志内村	堀株村	敷島内村	御鉾内町	潮路村
忍路村	熊鷹村	北濱町	盤徳町	赤石村	益村	發足村	前田村	稻穂崎町	有戸村
桃内村	張碓村	高島村	若松町	珊瑚内村	泊村	茅沼村	小澤村	橋町	種前村
蘭島村	錢函村	祝津村	高砂町				老古美村	吹上町	美谷村
			若竹町				幌似村	堀江町	熱那村
			勝納町				野東村	三島町	作開村
			湖見登町						
			新地町						
			金曇町						
			川原町						
			龍徳町						
			有幌町						
			曙町						
			沙崎町						
			手宮町						

大通		石狩郡		厚田郡		濱益郡		千歳郡		空知郡		市來知村		樺戸郡		月形村	
親船町		當別村		厚田村		茂生村		千歳村		直郡所轄		岩見澤村		滝川村		直郡所轄	
本町		當別村		聚富村		川下村		千歳村		市來知村		岩見澤村		(空知郡) 滝川村		(樺戸郡) 新十津川村	
辨天町		當別村		望來村		實田村		蘭越村		幌内村		幌向村		奈江村		野塚町	
新町		當別村		嶺泊村		柏木村		烏柵舞村		幾春別村		夕張郡) 角田村		登川村		永壽町	
淡町		當別村		古潭村		尻苗村		長都村		(空知郡) 沼貝村		登川村		登川村		七源町	
横町		當別村		押琴村		茂生村		島松村		沼貝村		登川村		登川村		島中町	
花畔村		當別村		厚田村		群別村		島松村		沼貝村		登川村		登川村		島中町	
生振村		當別村		厚田村		群別村		島松村		沼貝村		登川村		登川村		島中町	

網走郡		稚内郡		宗谷郡		永壽町		增毛郡		增毛郡		增毛郡	
網走郡		禮文郡		利尻郡		宗谷郡		上川郡		天鹽郡		留萌郡	
直轄		香深村		鬼脇村		稚内村		燒尻村		苦前村		留萌村	
美幌村		神崎村		鬼脇村		(枝幸郡) 頓別村		(苦前郡) 燒尻村		苦前村		留萌村	
新栗原村		船泊村		船泊村		頓別村		天鹽村		白志泊村		留萌村	
柞端邊村		香深村		石崎村		枝幸村		遠別村		力盡村		三泊村	
古梅村		尺忍村		仙法志村		歌登村		(中川郡) 遠別村		(天鹽郡) 沙流村		禮受村	
活汲村		香深村		仙法志村		歌登村		(上川郡) 遠別村		沙流村		禮受村	
達媚村		尺忍村		仙法志村		歌登村		遠別村		沙流村		禮受村	
遠音別村		尺忍村		仙法志村		歌登村		遠別村		沙流村		禮受村	
翻木倉村		尺忍村		仙法志村		歌登村		遠別村		沙流村		禮受村	

前編第二類一四〇頁及第四類二〇七頁附表





紗那村	紗那郡	直郡役所	紗那村
振別郡	留別村	(紗那郡)留別村	有筋村 別飛村
擇捉郡	(擇捉郡)内保村	(振別郡)振別村	老門村
藥取郡	藥取村	乙今牛村	

浦役場箇所調 (明治二十三年四月一日現在)			
管轄區域	國名	郡區名	町村名
石狩郡、樺川村、帆留町、樺町、辨天町、新町、船場町、若生町、八幡町、濱町、本町、厚田全郡	石狩國	石狩郡	親船町
磯谷郡、群別村、茂生村、川下村、尻苗村	後志國	厚田郡	厚田村
小樽郡、朝里村、熊鷹村、張碓村、錢函村		磯谷郡	茂生村
小樽郡、若竹町、信音町、勝納町、有磯町、淡町、堺町、高島郡、色内町、手宮町、威津村、高島村		小樽郡	朝里村
忍路全郡		忍路郡	量德町
余市郡、濱中町、山碓町、畚部村、川村、沖村		余市郡	濱中町
古平郡、濱町、湊町、入舟町、群來村、澤江村、歌乘村、沖村		古平郡	濱中町
美國全郡		美國郡	濱中町
積丹全郡		積丹郡	濱中町
岩内郡、御前町、船越町、野東村、敷島内村、野野納村		岩内郡	御前町
岩内郡、堀根村、茅沼村		岩内郡	堀根村
古宇郡、歪村、與志内村		古宇郡	歪村
古宇郡、神惠内村、赤石村、珊内村		古宇郡	神惠内村
壽都郡、六條町、大磯町、岩崎町、矢追町、開進町		壽都郡	六條町
壽都郡、樽岸村		壽都郡	樽岸村

浦役場箇所調 (明治二十三年四月一日現在) 前編第四類三二七頁附表

管轄區域	國名	郡區名	町村名
石狩郡、樺川村、帆留町、樺町、辨天町、新町、船場町、若生町、八幡町、濱町、本町、厚田全郡	石狩國	石狩郡	親船町
磯谷郡、群別村、茂生村、川下村、尻苗村	後志國	厚田郡	厚田村
小樽郡、朝里村、熊鷹村、張碓村、錢函村		磯谷郡	茂生村
小樽郡、若竹町、信音町、勝納町、有磯町、淡町、堺町、高島郡、色内町、手宮町、威津村、高島村		小樽郡	朝里村
忍路全郡		忍路郡	量德町
余市郡、濱中町、山碓町、畚部村、川村、沖村		余市郡	濱中町
古平郡、濱町、湊町、入舟町、群來村、澤江村、歌乘村、沖村		古平郡	濱中町
美國全郡		美國郡	濱中町
積丹全郡		積丹郡	濱中町
岩内郡、御前町、船越町、野東村、敷島内村、野野納村		岩内郡	御前町
岩内郡、堀根村、茅沼村		岩内郡	堀根村
古宇郡、歪村、與志内村		古宇郡	歪村
古宇郡、神惠内村、赤石村、珊内村		古宇郡	神惠内村
壽都郡、六條町、大磯町、岩崎町、矢追町、開進町		壽都郡	六條町
壽都郡、樽岸村		壽都郡	樽岸村

壽都郡政治村	島牧全郡	歌樂郡潮路村、有戸村、種前村、美谷村	磯谷全郡	久遠郡長磯村、貝取洞村、平田内村	久遠郡湯尻村、久遠村、上古丹村、太田村	奥尻全郡	太櫓全郡	瀬棚全郡	檜山郡五勝手村、コリ北江邊 片原町、マテ、ク村、二十六、ク町 檜山郡小砂子村、石崎村、沙吹村、 水ノ子村、上ノ國村、北村	檜山郡泊村、田澤村、伏木戸村、柳崎村	爾志郡乙部村、小茂内村、突符村、三ッ谷村	爾志郡相沼内村、泊川村、熊石村	松前郡福山市街	松前郡根部田村、札前村、赤神村、兩垂石村、茂草村	松前郡滑部村、江良町村、原口村	松前郡上及部村、大澤村、荒谷村、炭燒澤村	松前郡禮罷村、吉岡村、宮ノ歌村	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
福島村	元濱町	仲濱町	龜田村	下湯川村	錢龜澤村	戸井村	尻岸内村	假法華村	上磯村	茂邊地村	木古内村	知内村	尾札部村	白尻村	鹿部村	砂原村	森原村	落部村

松前郡白府村、福島村	函館區一圓	全	龜田郡龜田村	龜田郡下湯川村	龜田郡根崎村、志苔村、錢龜澤村、石崎村	龜田郡小安村、戸井村	龜田郡尻岸内村	龜田郡假法華村	上磯郡上磯村、富川村、谷好村、	上磯郡茂邊地村、石別村	上磯郡釜谷村、札新村、泉澤村、木古内村	上磯郡知内村、小谷石村、	茅部郡尾札部村	茅部郡白尻村、熊泊村	茅部郡鹿部村	茅部郡砂原村、掛洞村	茅部郡尾白内村、森村、石倉村、姥谷村	茅部郡落部村
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
福島村	元濱町	仲濱町	龜田村	下湯川村	錢龜澤村	戸井村	尻岸内村	假法華村	上磯村	茂邊地村	木古内村	知内村	尾札部村	白尻村	鹿部村	砂原村	森原村	落部村







留鹿前	六里一丁五十間	札幌ヨリ古平ヲ經テ岩内ニ至ル	黒岩	四里十丁
鬼鹿	五里	札幌ヨリ長万部ヲ經テ函館ニ至ル	山越内	六里二十九丁五十三間
天堀	十六里三丁	野塚	函館	十一里十八丁
稚谷	十五里十七丁	神惠内	札幌ヨリ長万部ヲ經テ函館ニ至ル	
宗幸	六里	泊内	岩内	三三六丁
枝内	二十五里二十六丁	岩内	札幌ヨリ岩内ヲ經テ函館ニ至ル	
幌別	十里十九丁二十七間	札幌	札幌ヨリ岩内ヲ經テ函館ニ至ル	
紋別	十二里十九丁五間	小樽	五里十丁三十間	
湧別	六里五丁十間	川村	三三三十四丁	
網走	八里二十丁	山道	五里二十七丁五十四間	
斜里	七里五丁六間	岩内	五里八丁五十三間	
標津	九里十二丁三十四間	鳴古丹	六里六丁五十九間	
春別	七里十七丁	黒松内	六里二十九丁五十三間	
別海	四里	長万部	五里七丁	
遠太	四里四十七間	札幌	四里三十三丁四十四間	
根室	三三	對峙	四里十六丁五十三間	

市來知	五里十五丁	函館	茂邊	五里十九丁二十四間
月形	五里二十丁四十間	木古内	知内	四里三十五丁五十八間
當別	四里四十八間	福山	福島	二里三十三丁三十七間
幌泉	四里三十三丁十八間	江崎	江崎	七里十五間
幌野	四里三十三丁十八間	石部	石部	五里二十八間
猿留	四里三十九間	乙部	乙部	五里二十九丁四十二間
函館ヨリ東海岸ニ至ル		久遠	久遠	六里十二丁四十四間
戸井	七里二十四丁五十八間	太極	太極	六里五丁五十九間
根法	六里二十一丁五十八間	瀬柳	瀬柳	三三三十五十四間
尾札	四里三十三丁二間	永豊	永豊	六里二十一丁十四間
白尻	二里二十二丁三十九間	壽都	壽都	七里七丁二十五間
鹿部	四里十五丁二十八間	函館ヨリ江差ニ至ル	函館	二里二十一丁二間
森部	七里六丁十三間	函館ヨリ西海岸通壽都ニ至ル	函館	十五里九丁二十八間
函館ヨリ西海岸通壽都ニ至ル		函館	函館	六里二十四丁三十三間

前編第五類二七三頁ノ後照

泊瀨石間 五里	泊瀨 五里	東瀨 五里	對雁當別間 二里二十二丁六間	大野、七飯間 一里二十三丁三十間	大野 一里二十三丁三十間	七飯 一里二十三丁三十間	乙部 鶴間 四里三十一丁五十間	乙部 四里三十一丁五十間	龜田村ヨリ字久根別ヲ經大野ニ至ル 三里二十二丁三十六間	龜田村 三里二十二丁三十六間	大野 三里二十二丁三十六間				
岩見澤 二里十六丁	月形 奈井江間 九里四丁四十間	月形 奈井江 九里四丁四十間	市來知空知太間 六里二十三丁五間	市來知 六里二十三丁五間	奈井江 三里九丁四十六間	空知太 三里九丁四十六間	空知太忠別太間 六里	空知太 六里	音江法華 六里十八丁二十八間	忠別太 六里十八丁二十八間	月形ヨリ晚來内ヲ經空知太ニ至ル 八里十七丁	月形 八里十七丁	空知太 八里十七丁	對雁市來知間 六里二十三丁四十四間	對雁 六里二十三丁四十四間

北海道廳

明治二十四年十一月十五日印刷  
 明治二十四年十一月十六日出版

印刷所 秀英舍  
 東京市京橋區西紺屋町  
 二十六七番地

EX 3D 41

